

令和5年度

全国学力・学習状況調査結果

令和5年9月
小樽市教育委員会

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

令和5年度全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒及び市内29校を対象に実施されました。

小樽市教育委員会では、令和元年度より、本市の子どもたちの課題解決のための「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」を示し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るとともに、学習意欲の向上と学習習慣の確立をめざし、各種研修会などを通じて指導内容や指導方法の工夫改善に努めております。

また、本調査は子どもたちの学力・学習状況を把握する大切な資料の一つであると捉えており、調査結果から見えてくる課題等については、学校間の序列化や過度な競争につながらないように配慮しながら、地域、保護者の皆さんに説明する責任があるものと考えます。

本書では、調査結果のポイントや児童生徒質問紙調査結果と平均正答率との相関を示しております。今後は、「小樽市小中学校学力向上検討委員会」を開催し、授業改善の方策についての協議を通して改善策を示し、学力向上の一層の充実を図ってまいります。

I 調査について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・中学校第3学年の児童生徒

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語（中学校のみ）〕

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれ次の①と②を一体的に問うものである。また、出題形式として、記述式の問題を一定割合で導入している。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する質問紙調査	学校に対する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日 令和5年4月18日（火）

5 4月18日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

	学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	17	634
中学校	12	627
合計	29	1,261

※ 上記期日以外に調査を実施した児童生徒は集計には含まれていない。

II 教科に関する調査結果等について

1 教科に関する調査

<令和5年度調査 各教科の平均正答率（％）及び平均正答数（問）>

		小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	英語
平均 正答 率	小樽市	65	58	68	46	39
	北海道	66	61	69	49	44
	全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
平均 正答 数	対象問題数	14	16	15	15	17
	小樽市	9.1	9.4	10.2	6.9	6.6
	北海道	9.2	9.8	10.4	7.4	7.5
	(北海道との差)	(-0.1)	(-0.4)	(-0.2)	(-0.5)	(-0.9)
	全国	9.4	10.0	10.5	7.6	7.7
(全国との差)	(-0.3)	(-0.6)	(-0.3)	(-0.7)	(-1.1)	

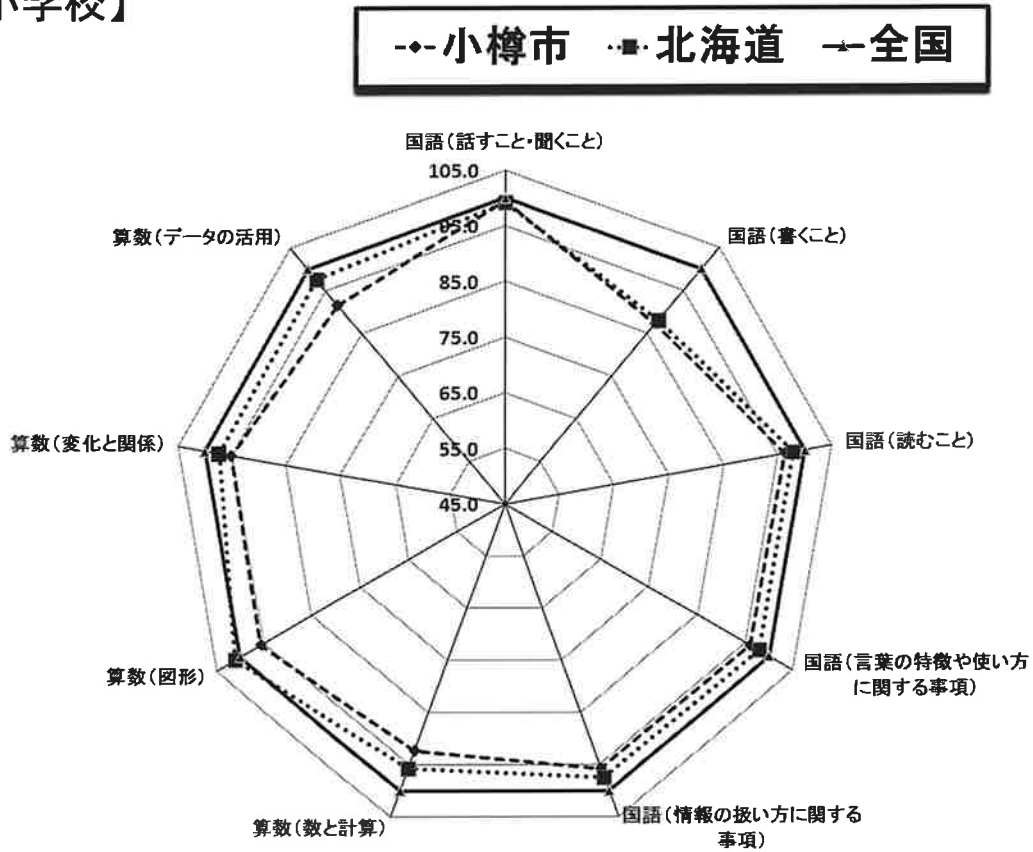
※平成29年度から、小樽市及び北海道の平均正答率については文部科学省から整数値で結果が提供されていますので、整数値で結果を表示しています。

※本資料で取り扱われている「北海道」及び「全国」とは、全て公立小中学校のことを指します。

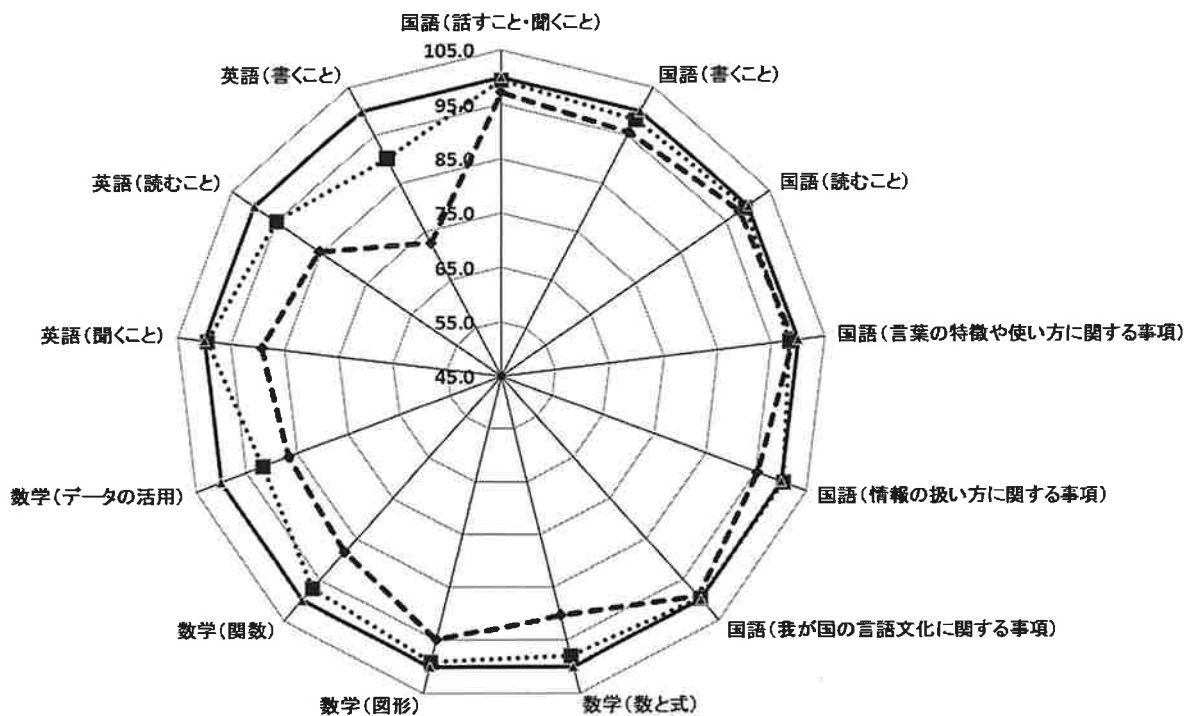
2 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の各領域等の状況

※数値は、全国の平均正答率を100とした場合の観点別の達成の状況を表しており、「それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100」で算出しております。

【小学校】

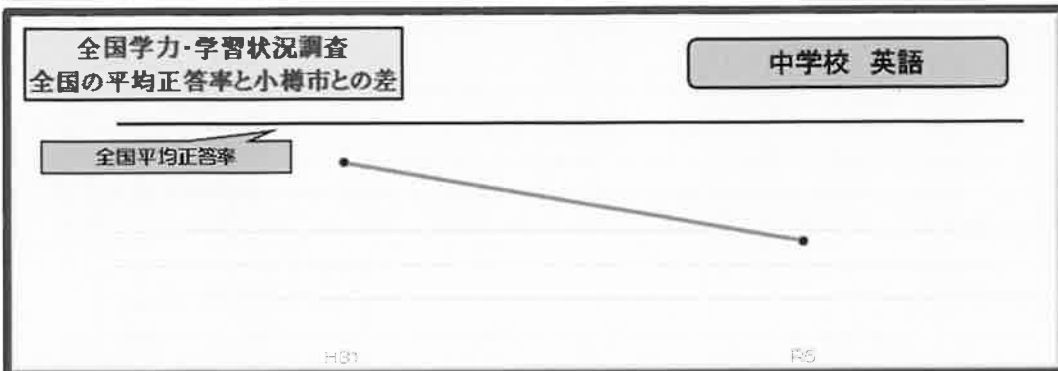
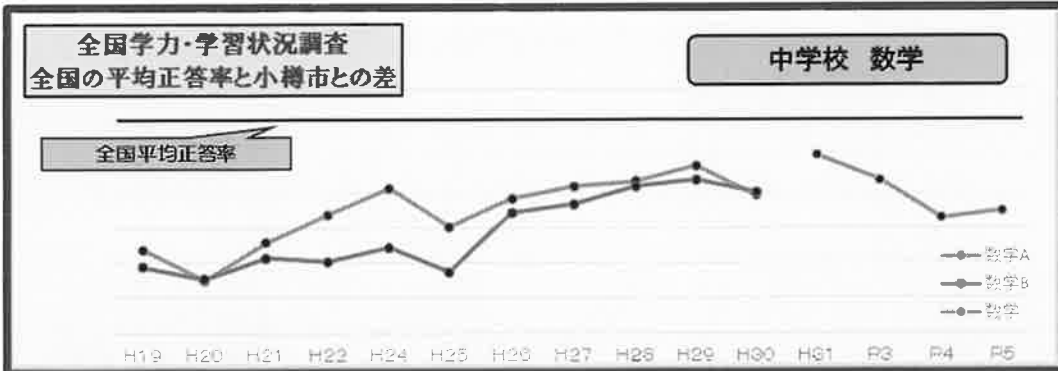
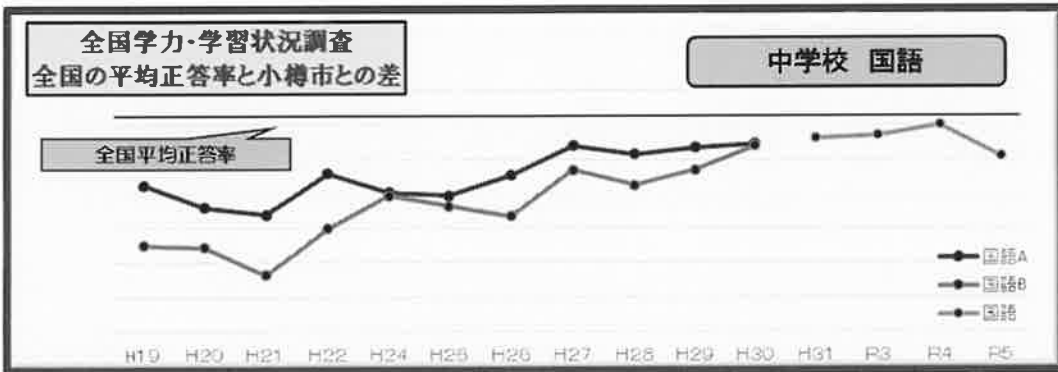
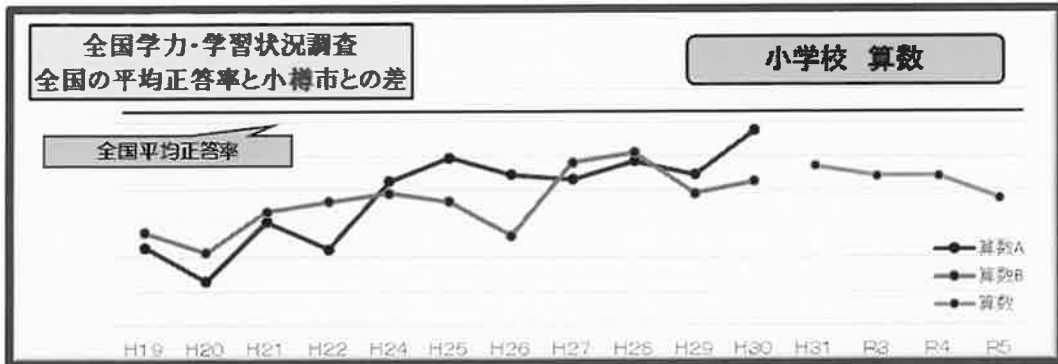
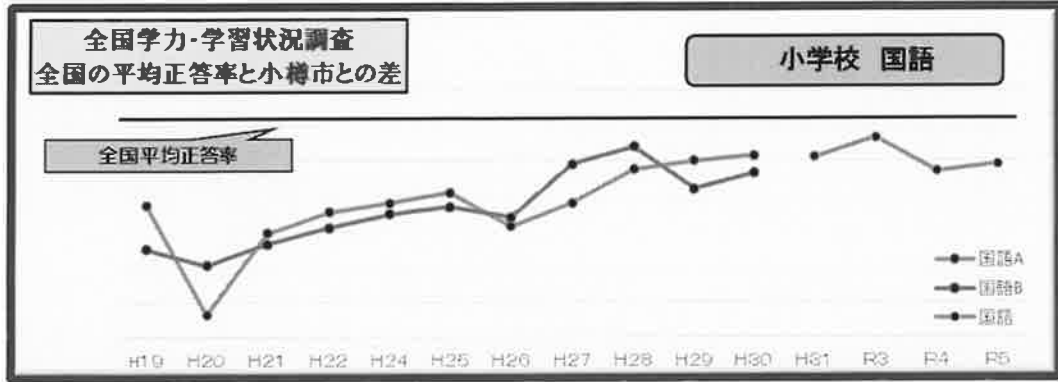


【中学校】



3 全国の平均正答率との差の推移

※全国の平均正答率と小樽市の平均正答率との差を折れ線グラフで表しております。なお、平成31年度からは、AB問題の区別がなくなりました。



小学校国語

【平均正答率】

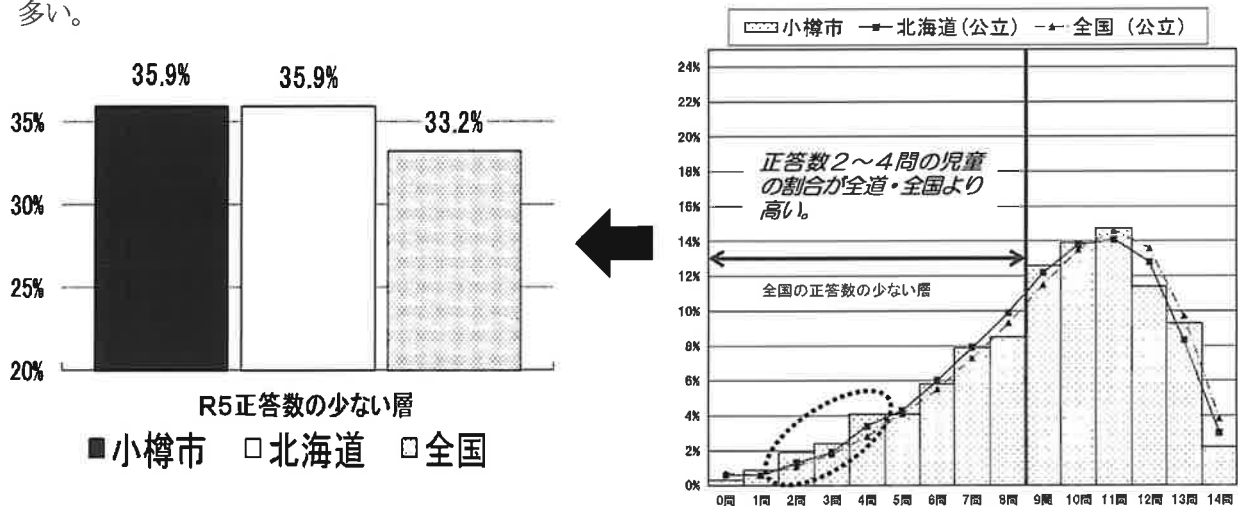
	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	634	9.1 / 14	65
北海道	35,645	9.2 / 14	66
全国	964,177	9.4 / 14	67.2

【分類・区分別集計結果】 ※ 線は、全道平均以上

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			小樽市	北海道	全国	
学習 指導 要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	68.4	69.7	71.2
		(2) 情報の扱いに関 する事項	2	60.7	61.8	63.4
		(3) 我が国の言語文化 に関する事項	0	—	—	—
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	72.2	72.0	72.6	
	B 書くこと	1	23.3	23.5	26.7	
	C 読むこと	3	68.6	69.7	71.2	

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる児童の割合】

正答数の少ない層（正答数8問以下）に含まれる児童の割合が35.9%で、全国と比べ2.7ポイント多い。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「示された文章の特徴の説明として適切なものを選択する」問題（第5学年及び第6学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、79.0%の正答率（全国は79.8%）です。[大問1四]
- ◇「種類の違う2つの資料(資料1、2)に書かれている内容として適切なものを選択する」問題（第3学年及び第4学年「読むこと」）は、87.7%の正答率（全国は90.0%）です。[大問2一]
- ◇「学校ボランティアの2名が、どのような思いでボランティアを続けているのかについてインタビューをもとに分かったことをまとめて書く」問題（第5学年及び第6学年「話すこと・聞くこと」）は、73.2%の正答率（全国は70.2%）です。[大問3二]
- ◆「示された文章の空欄に入る問題点と解決方法を、グラフや記録カードをもととして書く」問題（第5学年及び第6学年「書くこと」）は、23.3%の正答率（全国は26.7%）です。[大問1二]
- ◆「文章中の_____部「いがいに」(意外に)を、漢字を使って書き直す」問題（第5学年及び第6学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、46.7%の正答率（全国は52.8%）です。[大問1三(1)ア]
- ◆「資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く」問題（第5学年及び第6学年「読むこと」）は、51.4%の正答率（全国は56.2%）です。[大問2四]

国語における課題

- ・ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- ・ 複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめること。
- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。

小学校算数

【平均正答率】

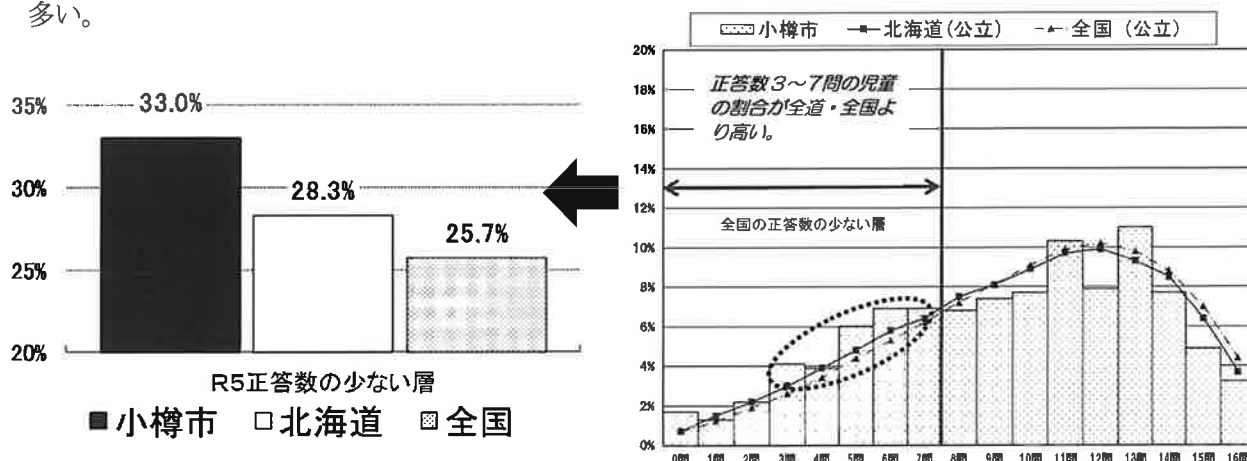
	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	634	9.4 / 16	58
北海道	35,657	9.8 / 16	61
全国	964,350	10.0 / 16	62.5

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			小樽市	北海道	全国
学習 指導 要領 の 領域	A 数と計算	6	62.1	64.4	67.3
	B 図形	4	46.1	48.7	48.2
	C 測定	0	—	—	—
	C 変化と関係	4	67.4	69.0	70.9
	D データの活用	3	60.0	63.9	65.5

【「正答数分布状況」及び「全国の子答数の少ない層・多い層に含まれる児童の割合】

正答数の少ない層（正答数7問以下）に含まれる児童の割合が33.0%で、全国と比べ7.3ポイント多い。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「5脚の椅子を重ねたときの高さを求める」問題（第4学年「変化と関係」）は、92.4%の正答率（全国は93.5%）です。[大問1（1）]
- ◇「椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く」問題（第5学年「変化と関係」）は、84.1%の正答率（全国は88.5%）です。[大問1（2）]
- ◇「テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く」問題（第2学年及び第4学年「図形」）は、83.4%の正答率（全国は87.2%）です。[大問2（2）]
- ◆「椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く」問題（第5学年「変化と関係」）は、48.7%の正答率（全国は55.5%）です。[大問1（3）]
- ◆「3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する」問題（第3学年及び第4学年「数と計算」）は、49.8%の正答率（全国は56.7%）です。[大問3（2）]
- ◆「二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く」問題（第3学年「データの活用」）は、50.8%の正答率（全国は56.2%）です。[大問4（3）]

算数における課題

- ・ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述すること。
- ・ 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断すること。
- ・ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを記述すること。

中学校国語

【平均正答率】

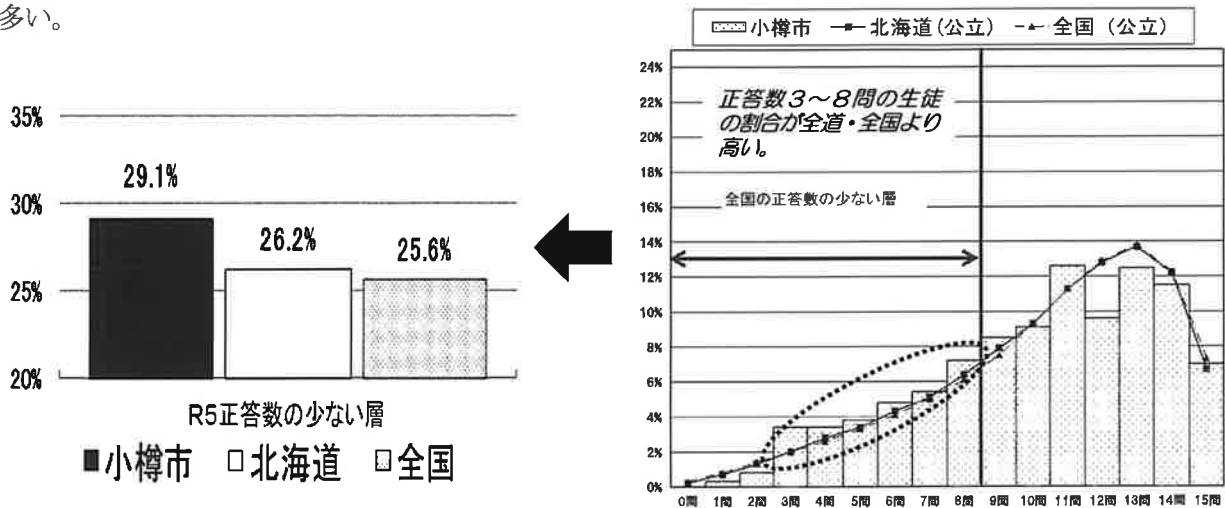
	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	625	10.2 / 15	68
北海道	34,256	10.4 / 15	69
全国	892,738	10.5 / 15	69.8

【分類・区別集計結果】 ※ 線は、全道平均以上

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			小樽市	北海道	全国
学習指導要領 の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.9	66.4	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	60.4	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.1	74.5	74.7
思考力、 判断力、 表現力等	A	話すこと・聞くこと	79.9	81.8	82.2
	B	書くこと	60.4	62.1	63.2
	C	読むこと	62.5	63.3	63.7

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる生徒の割合」】

正答数の少ない層（正答数8問以下）に含まれる生徒の割合が29.1%で、全国と比べ3.5ポイント多い。



【問題別調査結果の概要】 (◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題)

- ◇「インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する」問題（第1学年「話すこと・聞くこと」）は、86.4%の正答率（全国は87.5%）です。[大問1一]
- ◇「インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く」問題（第1学年「話すこと・聞くこと」）は、80.0%の正答率（全国は82.5%）です。[大問1四]
- ◇「『落胆する』の意味として適切なものを選択する」問題（第1学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、91.7%の正答率（全国は91.4%）です。[大問2一]
- ◆「自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く」問題（第2学年「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」）は、67.2%の正答率（全国は67.5%）です。[大問2四]
- ◆「レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する」問題（第1学年「書くこと」）は、50.1%の正答率（全国は54.3%）です。[大問3一]
- ◆「漢字を書く（おし量って）」問題（第2学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、42.1%の正答率（全国は43.9%）です。[大問3二]

国語における課題

- ・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えること。
- ・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりすること。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くこと。

中学校数学

【平均正答率】

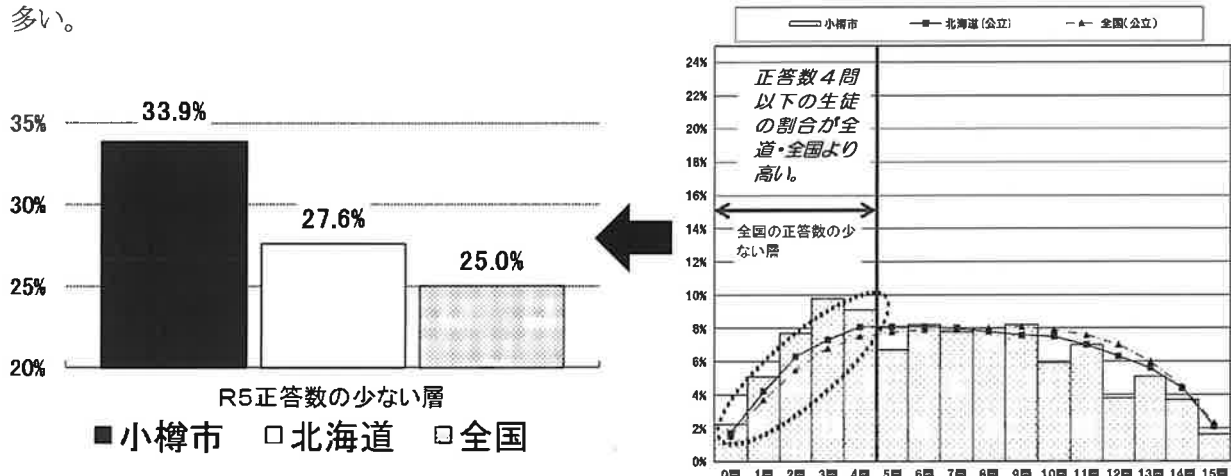
	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	625	6.9 / 15	46
北海道	34,259	7.4 / 15	49
全国	893,114	7.6 / 15	51.0

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			小樽市	北海道	全国
学習 指導 要領 の 領域	A 数と式	5	56.9	61.7	63.0
	B 図形	3	31.5	32.9	33.2
	C 関数	4	45.2	49.7	51.2
	D データの活用	3	42.0	44.5	48.5

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる生徒の割合】

正答数の少ない層（正答数4問以下）に含まれる生徒の割合が33.9%で、全国と比べ8.9ポイント多い。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇ 「 $12(x/4+y/6)$ を計算する」問題（第2学年「数と式」）は、76.2%の正答率（全国は80.5%）です。[大問2]
- ◇ 「はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める」問題（第1学年「数と式」）は、87.4%の正答率（全国は88.9%）です。[大問6（1）]
- ◇ 「与えられた資料から、四分位範囲を求める」問題（第2学年「データの活用」）は、56.6%の正答率（全国は65.7%）です。[大問7（1）]
- ◆ 「はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する」問題（第2学年「数と式」）は、34.4%の正答率（全国は40.9%）です。[大問6（3）]
- ◆ 「グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する」問題（第2学年「関数」）は、37.3%の正答率（全国は42.8%）です。[大問8（3）]
- ◆ 「2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する」問題（第2学年「図形」）は、27.7%の正答率（全国は32.1%）です。[大問9（1）]

数学における課題

- ・結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見いだし説明すること。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。
- ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。

中学校英語

【平均正答率】

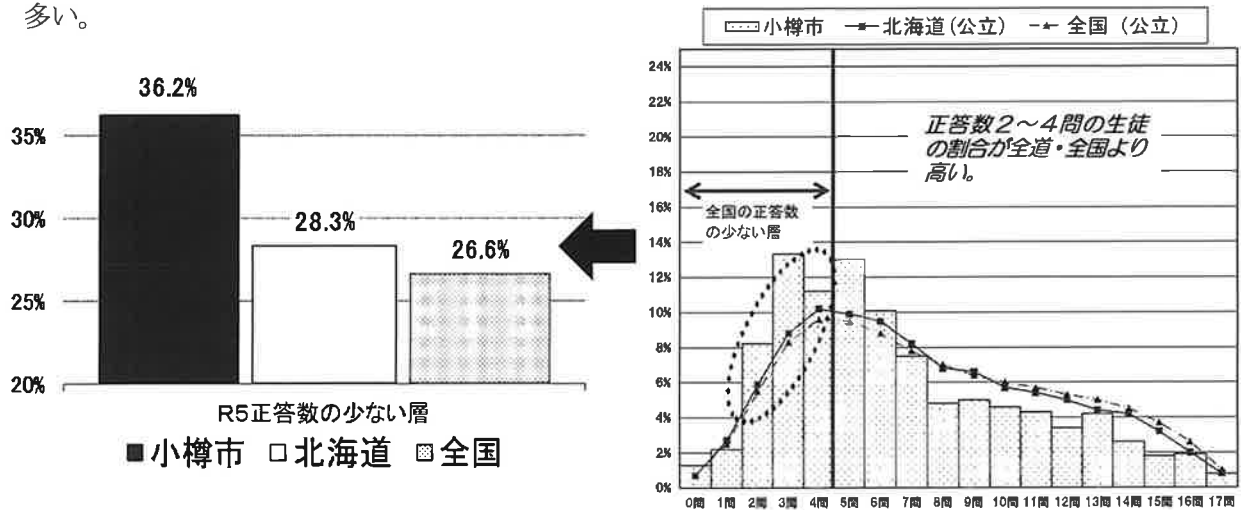
	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	625	6.6 / 17	39
北海道	34,242	7.5 / 17	44
全国	893,528	7.7 / 17	45.6

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			小樽市	北海道	全国
学習 指導 要領 の 領域	(1) 聞くこと	6	52.1	58.1	58.4
	(2) 読むこと	6	43.7	48.7	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0	—	—	—
	(4) 話すこと [発表]	0	—	—	—
	(5) 書くこと	5	17.0	21.1	23.4

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる生徒の割合】

正答数の少ない層（正答数4問以下）に含まれる生徒の割合が36.2%で、全国と比べ9.6ポイント多い。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」問題（「聞くこと」）は、56.8%の正答率（全国は64.4%）です。[大問1（2）]
- ◇「忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する」問題（「聞くこと」）は、57.8%の正答率（全国は61.1%）です。[大問2]
- ◇「水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する」問題（「聞くこと」）は、50.4%の正答率（全国は54.8%）です。[大問4]
- ◆「バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する」問題（「聞くこと」）は、37.6%の正答率（全国は41.2%）です。[大問3]
- ◆「図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する」問題（「読むこと」）は、31.0%の正答率（全国は34.7%）です。[大問7（2）]
- ◆「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」問題（「書くこと」）は、13.0%の正答率（全国は19.5%）です。[大問8（2）]

英語における課題

- ・自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること。
- ・日常的な話題に関する文章の概要を捉えること。
- ・社会的な話題について、自分の考えやその理由などを書くこと。

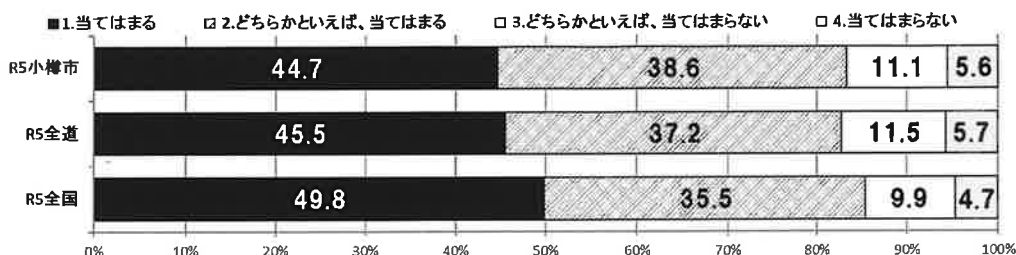
Ⅲ 児童生徒質問紙調査結果の概要

児童生徒質問紙調査は、子どもたちの学習意欲、学習方法、学習環境、生活面等に関する調査であり、主なものを掲載しています。

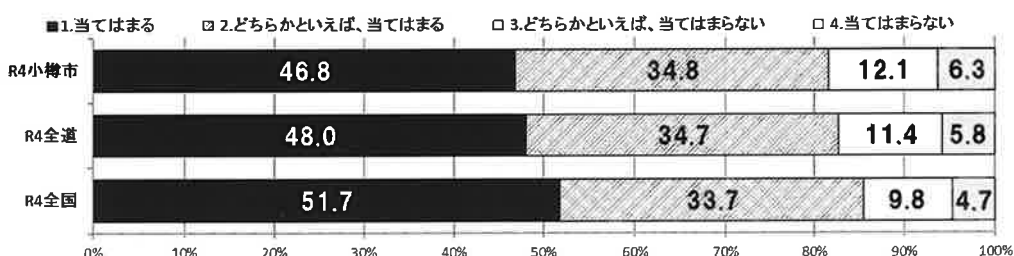
1 あなたは学校に行くのは楽しいと思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

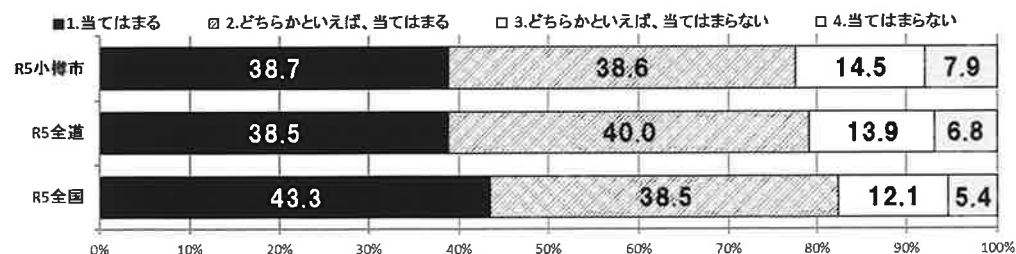
【小学校】＜令和5年度＞



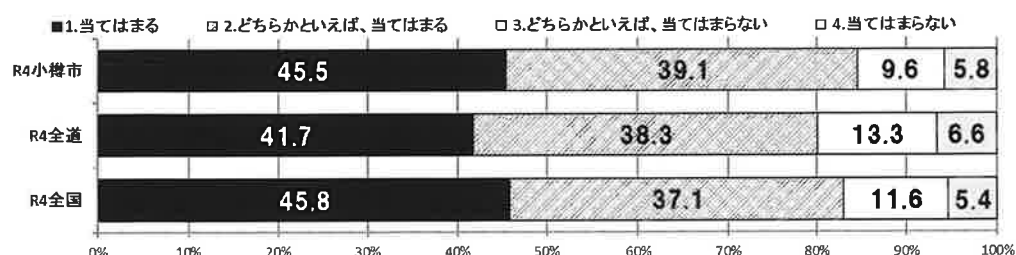
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞

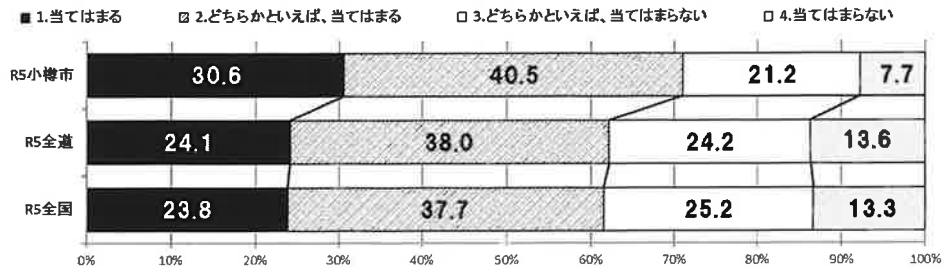


小学生は、8割以上が、中学生も8割近くが楽しく学校に通っていると回答している。

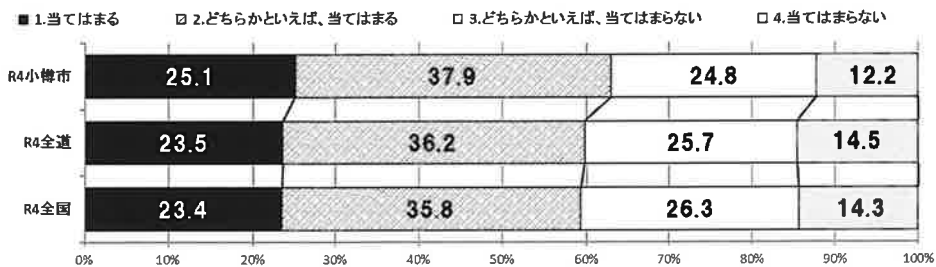
- ・小学校では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」の割合が、83.3%であり、全国（85.3%）と比べ、2.0ポイント低くなっています。また、中学校は77.3%であり、全国（81.8%）と比べ、4.5ポイント低くなっています。
- ・学校生活の多くの時間は授業時間であることから、児童生徒に「わかる」「できる」実感をもたせる授業づくりに努める必要があります。

2-1 国語の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

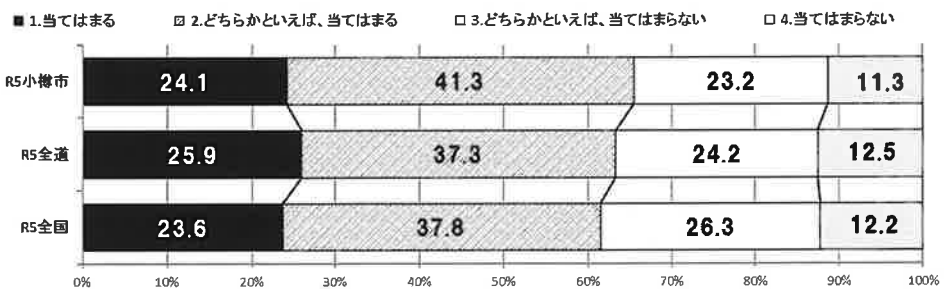
【小学校】＜令和5年度＞



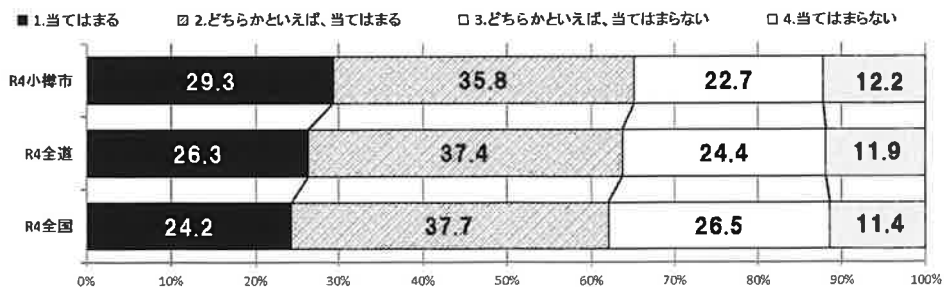
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞

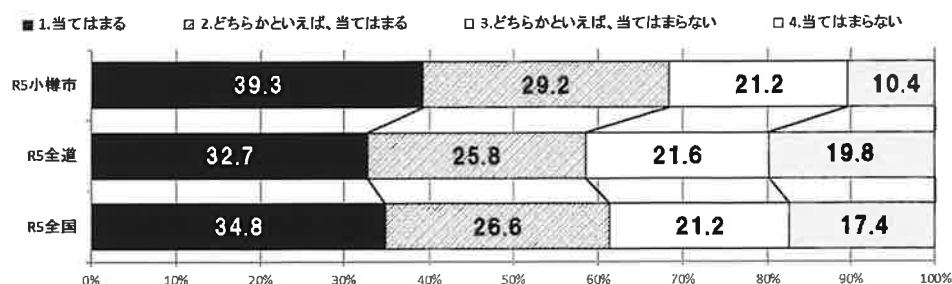


小・中ともに、全道・全国と比べ、国語の学習に対する意欲が高い。

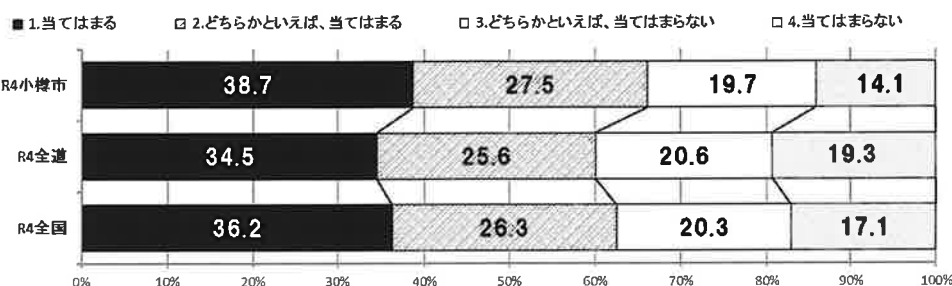
- ・ 小学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が、71.1%で、全国（61.5%）と比べ、9.6ポイント高くなっています。また、中学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が65.4%（全国は61.4%）であり、全国と比べ、4.0ポイント高くなっています。

2-2 算数・数学の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

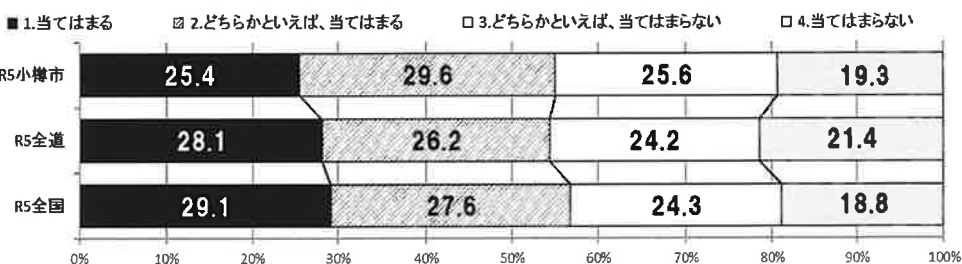
【小学校】＜令和5年度＞



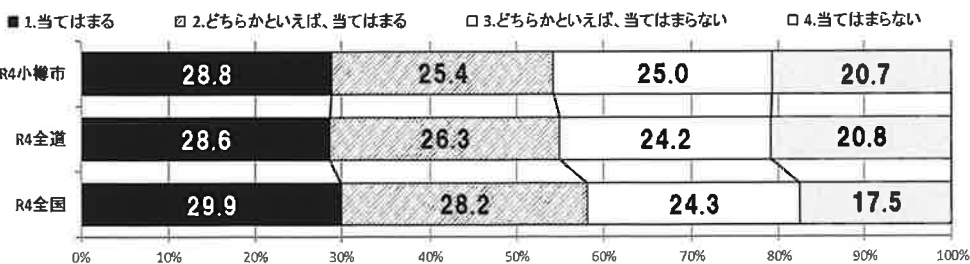
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞

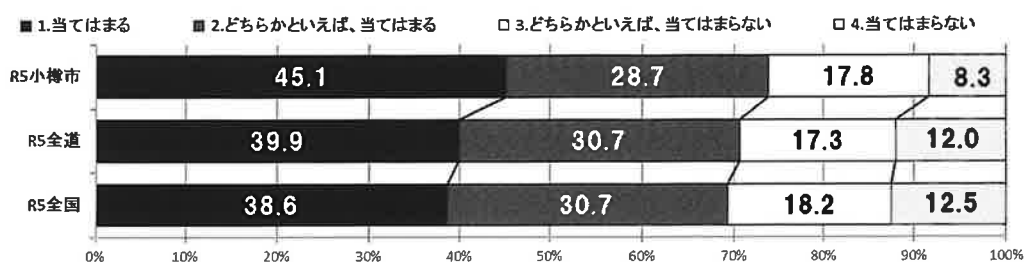


小学校の算数は、全道・全国と比べ、学習に対する意欲が高い。
中学校の数学は、学習に対する意欲に課題がある。

- ・小学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が、68.5%で、全国（61.4%）と比べ、7.1ポイント高くなっています。一方、中学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が55.0%（全国は56.7%）であり、全国と比べ、1.7ポイント低くなっています。また、「好き」の割合が、25.4%（全国は29.1%）であり、3.7ポイント低くなっています。

2-3 英語の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

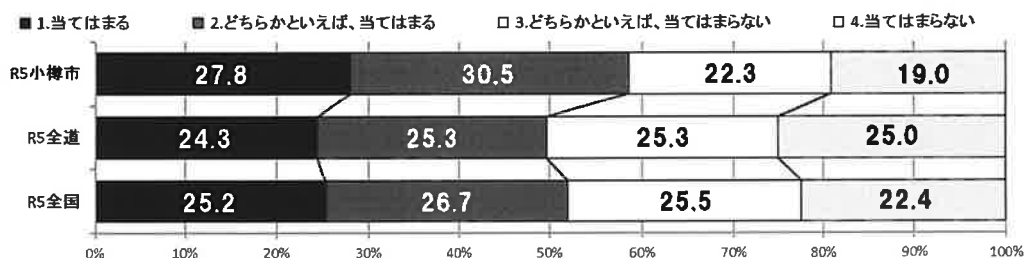
【小学校】＜令和5年度＞



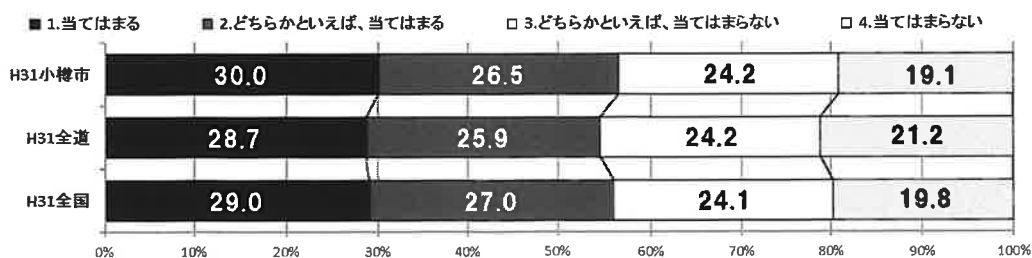
【小学校】＜平成31年度（令和元年度）＞

※該当する質問項目なし

【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜平成31年度（令和元年度）＞



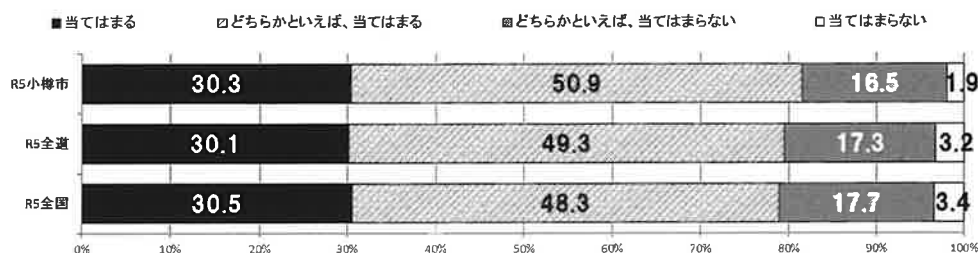
小・中ともに、全道・全国と比べ、英語の学習に対する意欲が高い。

- ・小学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が、73.8%で、全国（69.3%）と比べ、4.5ポイント高くなっています。また、中学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が58.3%（全国は51.9%）であり、全国と比べ、6.4ポイント高くなっています。

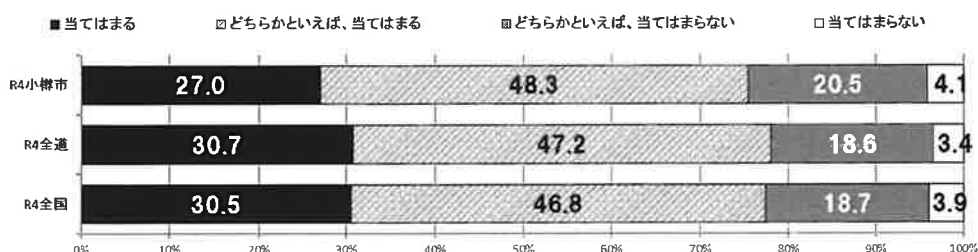
3 5年生まで（中学校は1、2年生まで）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

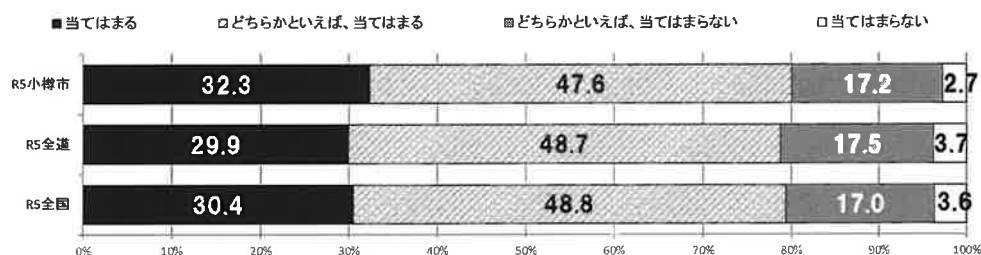
【小学校】＜令和5年度＞



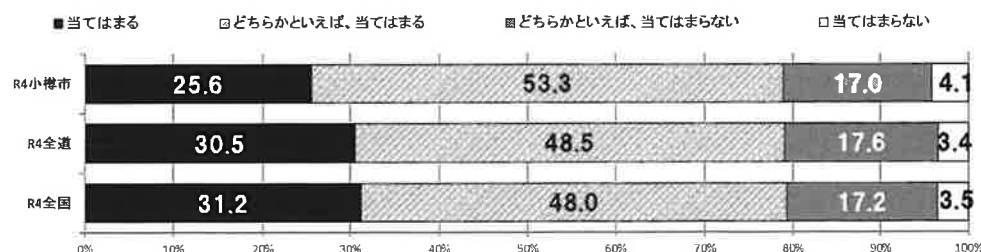
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



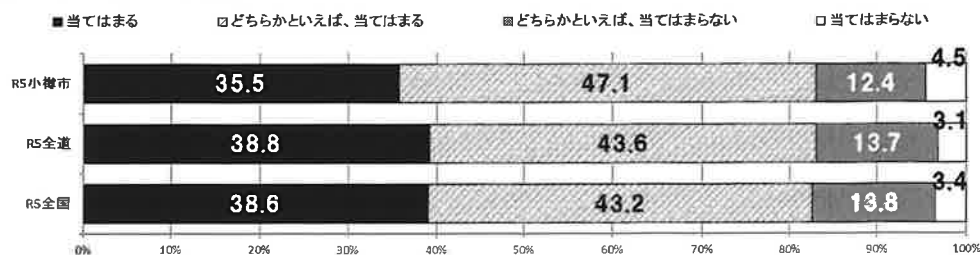
課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う割合は、小・中ともに全道・全国より高い。

- ・ 小学校では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、81.2%で、全国（78.8%）と比べ、2.4ポイント高くなっています。中学校では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が79.9%（全国は79.2%）であり、全国と比べ、0.7ポイント高くなっています。
- ・ 学習課題を明確にし、解決に向けて取り組む場面を位置付けるなど、児童生徒を主体とした学習に向けた授業改善が図られていると考えられます。

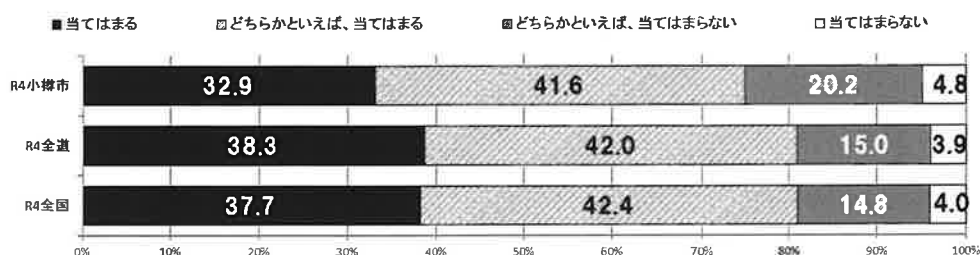
4 学級の友達との（中学校は生徒の）間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

※「活動を行っていない」「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

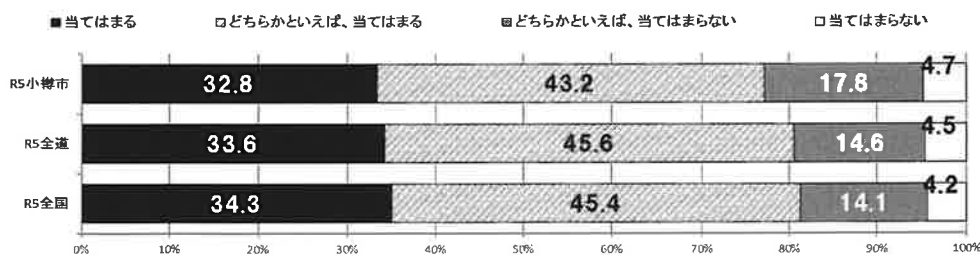
【小学校】＜令和5年度＞



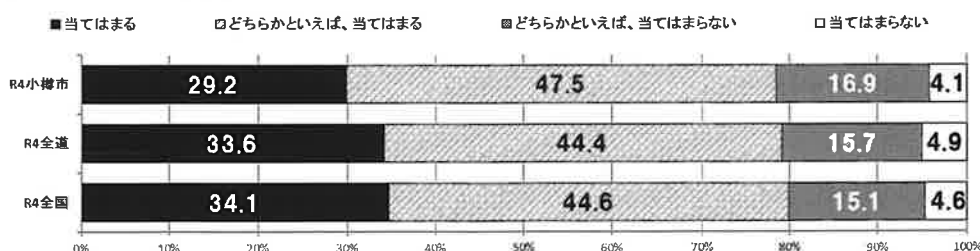
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



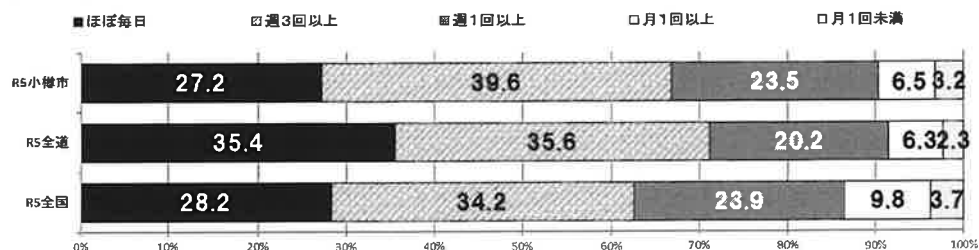
前回調査と比べ、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う割合は、小学校で高く、中学校で低くなっている。

- ・小学校では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、82.6%で、全国（81.8%）と比べ、0.8ポイント高くなっています。一方、中学校では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が76.0%（全国は79.7%）であり、全国と比べ、3.7ポイント低くなっています。
- ・中学校において、単元の中に話し合う活動を取り入れ、自分の考えを深めたり、広げたりする授業展開を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を進める必要があります。

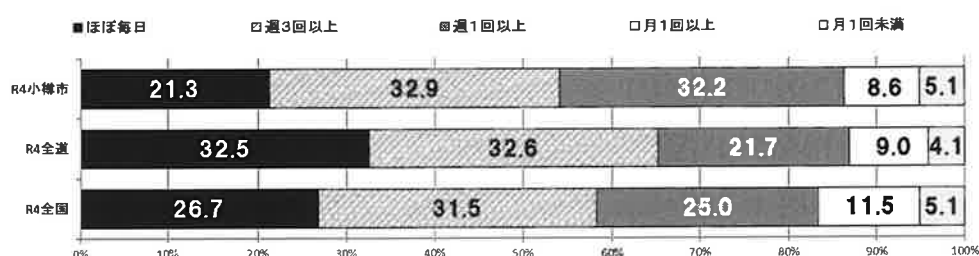
5 5年生までに（中学校は1、2年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

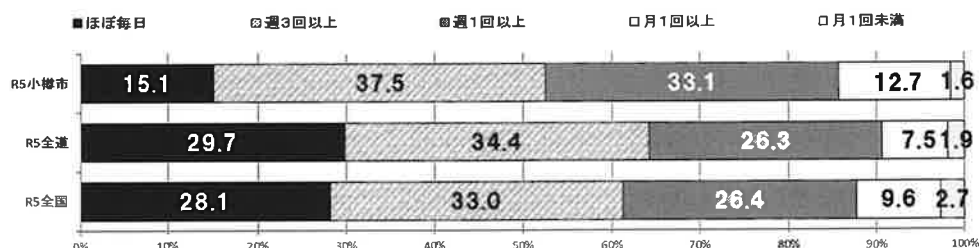
【小学校】＜令和5年度＞



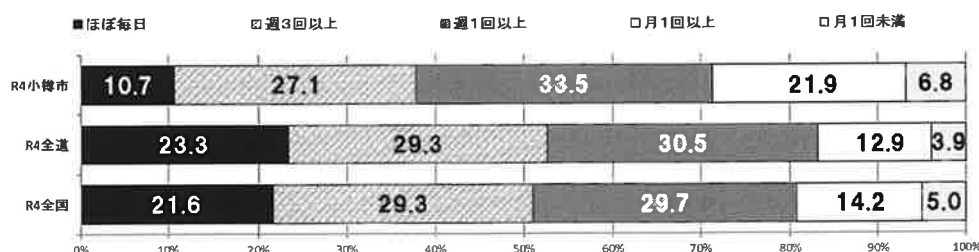
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



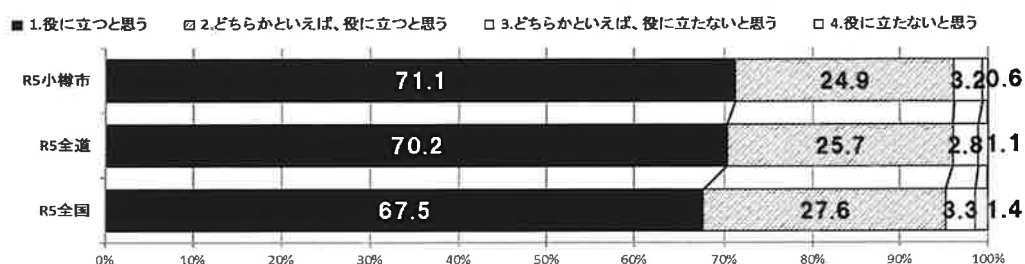
前回調査と比べ、PC・タブレットなどのICT機器の活用頻度は小・中ともに高くなっている。

- ・小学校では、「ほぼ毎日」「週3回以上」の割合が、66.8%で、全国（62.4%）と比べ、4.4ポイント高くなっており、「ほぼ毎日」の割合については、昨年度よりも全国との差が縮まっています。一方、中学校では、「ほぼ毎日」「週3回以上」の割合が、52.6%（全国は61.1%）であり、全国と比べ、8.5ポイント低くなっているものの、昨年度より14.8ポイント高くなっています。
- ・各学校では、活用促進に向けた校内研修などの取組が充実し、1人1台端末の日常的な活用が進んできているものと考えられます。

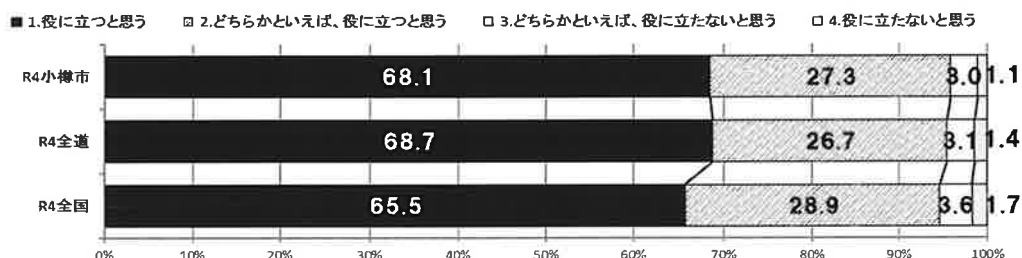
6 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

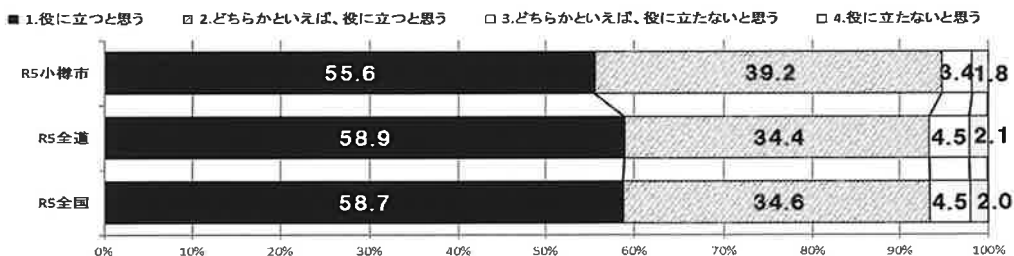
【小学校】＜令和5年度＞



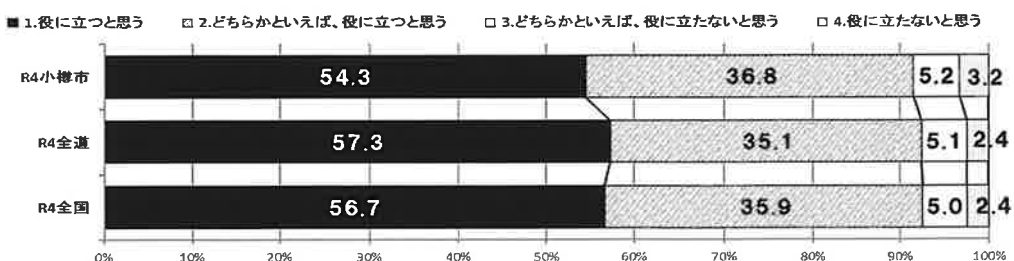
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞

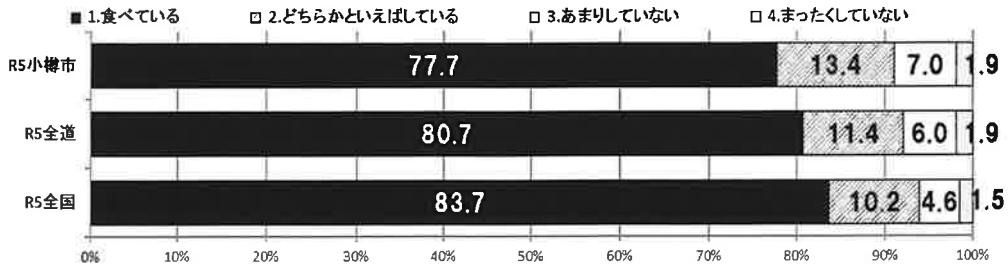


学習にPC・タブレットなどのICT機器を使うことは勉強の役に立つと思っている児童生徒の割合は、小・中ともに全国より高い。

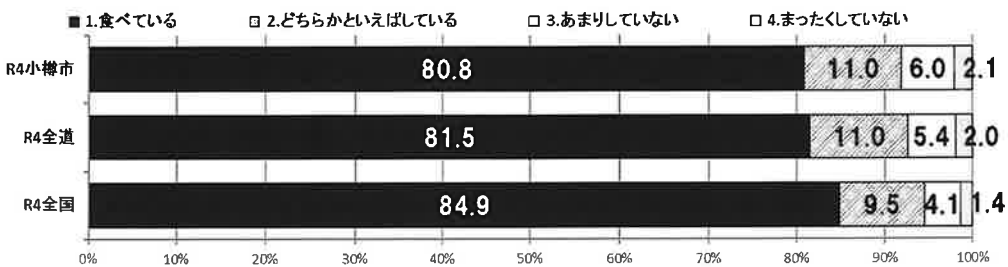
- ・小学校では、「役に立つ」「どちらかといえば役に立つ」の割合が、96.0%で、全国（95.1%）と比べ、0.9ポイント高く、中学校では、94.8%（全国93.3%）であり、全国と比べ、1.5ポイント高くなっています。
- ・効果を実感している児童生徒が多いことから、効果的な活用事例を共有し、実践につなげることが大切です。

7 朝食を毎日食べていますか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

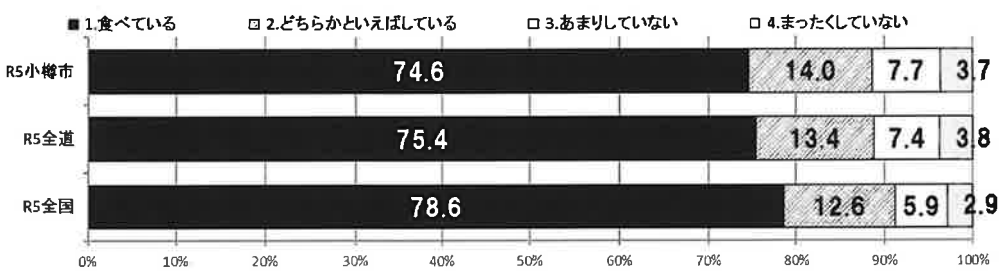
【小学校】＜令和5年度＞



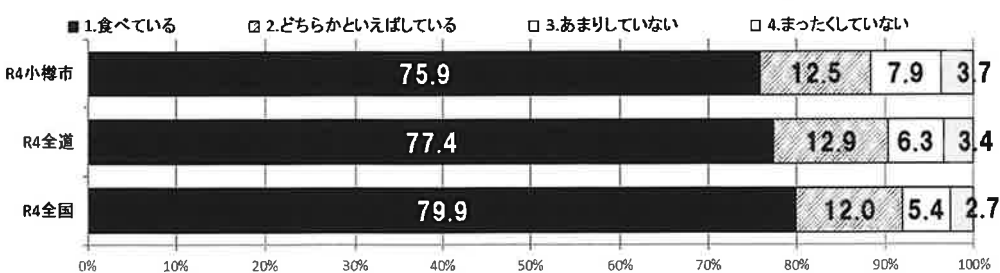
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞

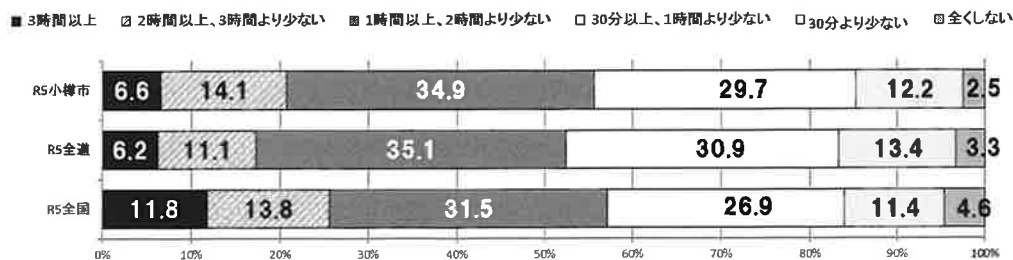


小・中ともに、朝食を毎日食べている割合が減っている。

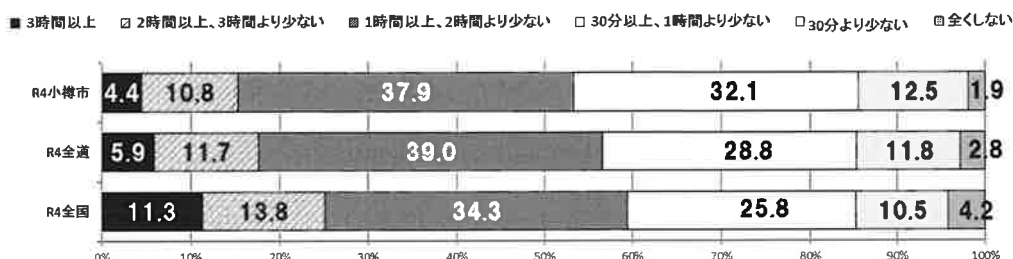
- ・「食べている」割合は昨年度より、小学校で3.1ポイント、中学校で1.3ポイント低くなっており、全国と比べても低くなっています。
- ・毎日を元気に過ごすためには、早寝早起きや、朝食を食べることが大切であることから、引き続き家庭や地域と連携を強化し、望ましい生活習慣を確立していく必要があります。

8 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

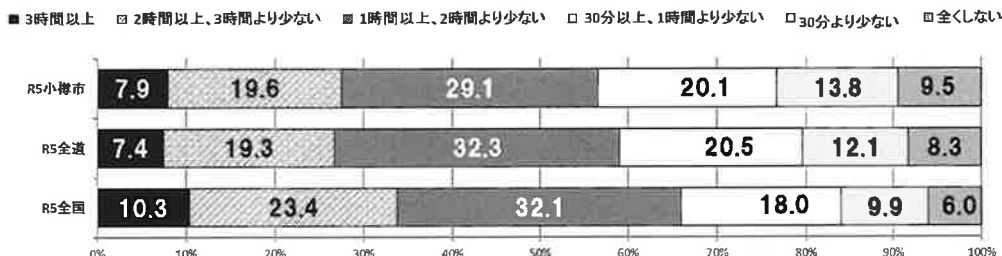
【小学校】＜令和5年度＞



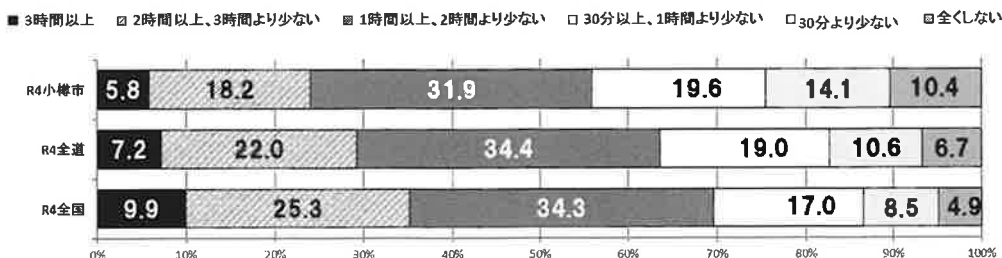
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



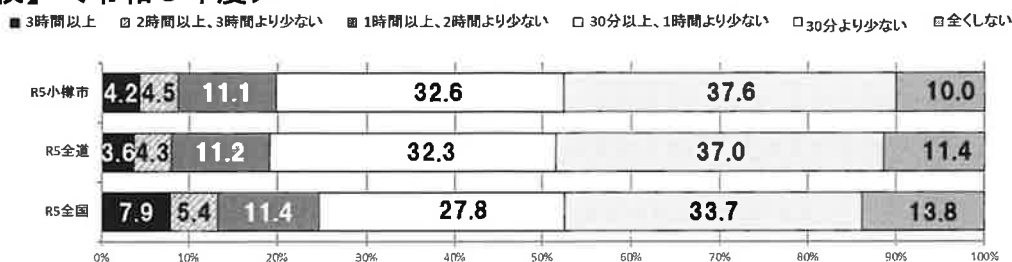
小・中ともに平日の学習時間に課題がある。

- ・小学校で「1日に1時間以上勉強する」割合は55.6%で、全国（57.1%）と比べ、1.5ポイント低く、中学校で「1日に2時間以上勉強する」割合は27.5%（全国は33.7%）で、全国と比べ、6.2ポイント低くなっています。
- ・小・中ともに昨年度よりも学習する割合が高くなっているものの、依然として全国を下回っており、家庭と学校が協力した取組を進める必要があります。

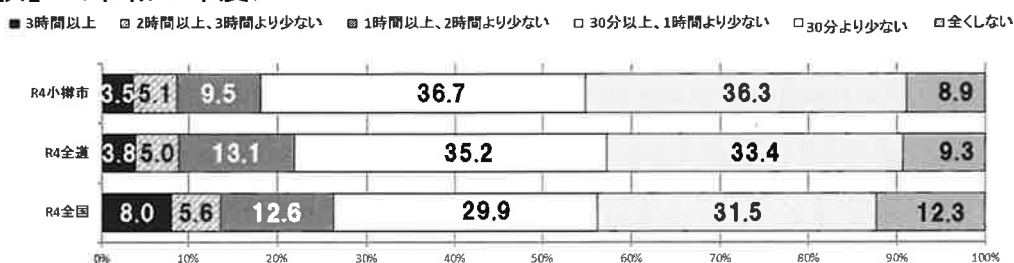
9 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

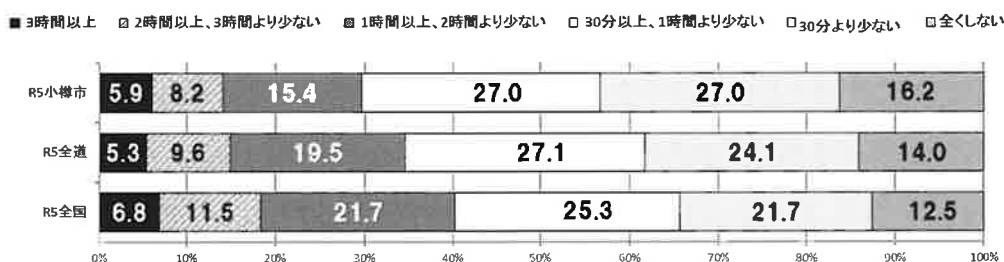
【小学校】＜令和5年度＞



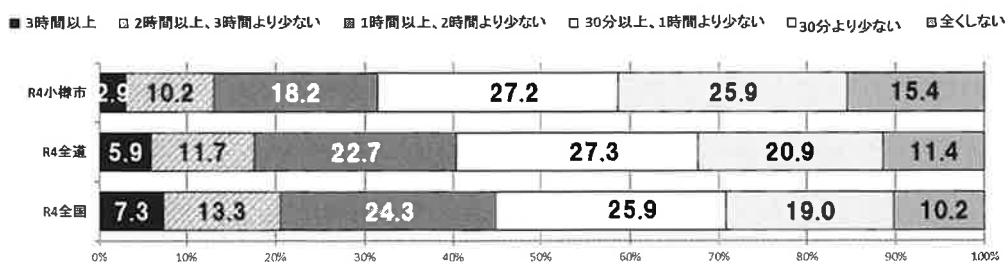
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



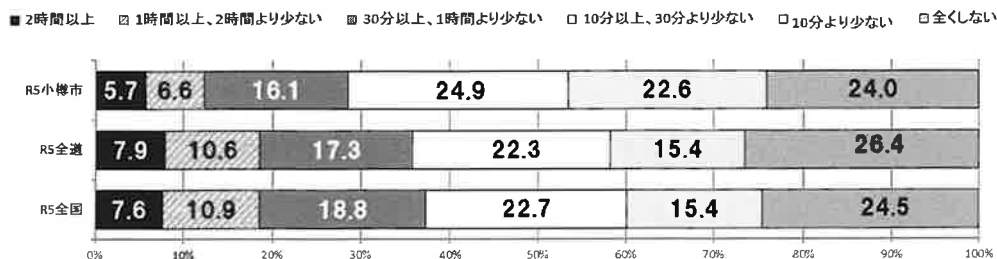
小・中ともに土日の学習時間に課題がある。

- ・ 小学校で「休日において1日に1時間以上勉強する」割合は19.8%で、全国（24.7%）と比べ、4.9ポイント低く、中学校で「1日に2時間以上勉強する」割合は14.1%（全国は18.3%）で、全国と比べ、4.2ポイント低くなっています。
- ・ 昨年度と比べ、小学校は1.7ポイント高く、中学校は1.0ポイント高くなっておりますが、全国を下回っていることから、週末の課題を工夫するなど、家庭と学校が協力した取組を進める必要があります。

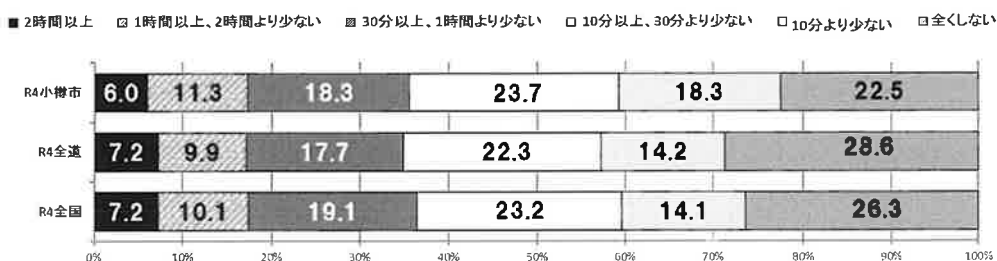
10 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

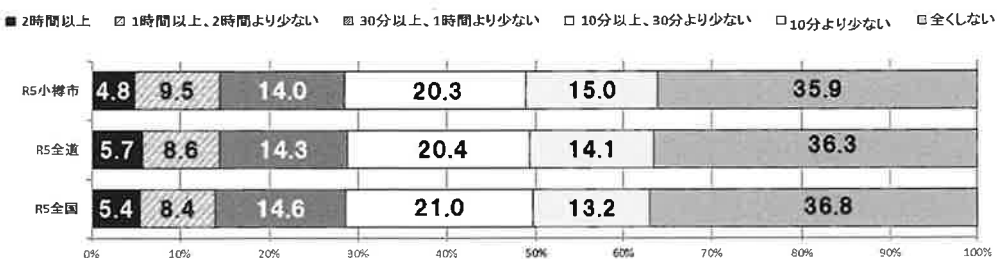
【小学校】＜令和5年度＞



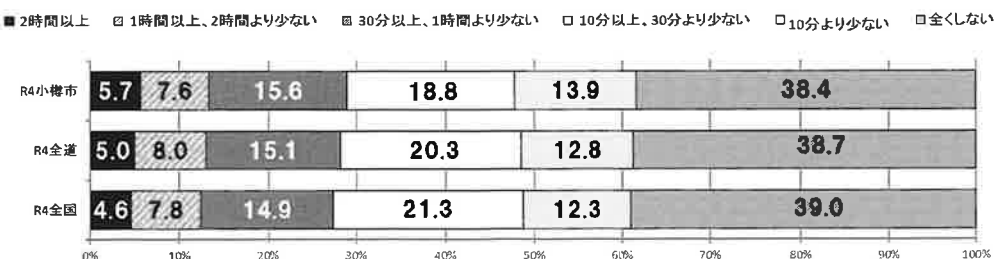
【小学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



全国と比べ、学校の授業時間以外の読書の時間が多い。

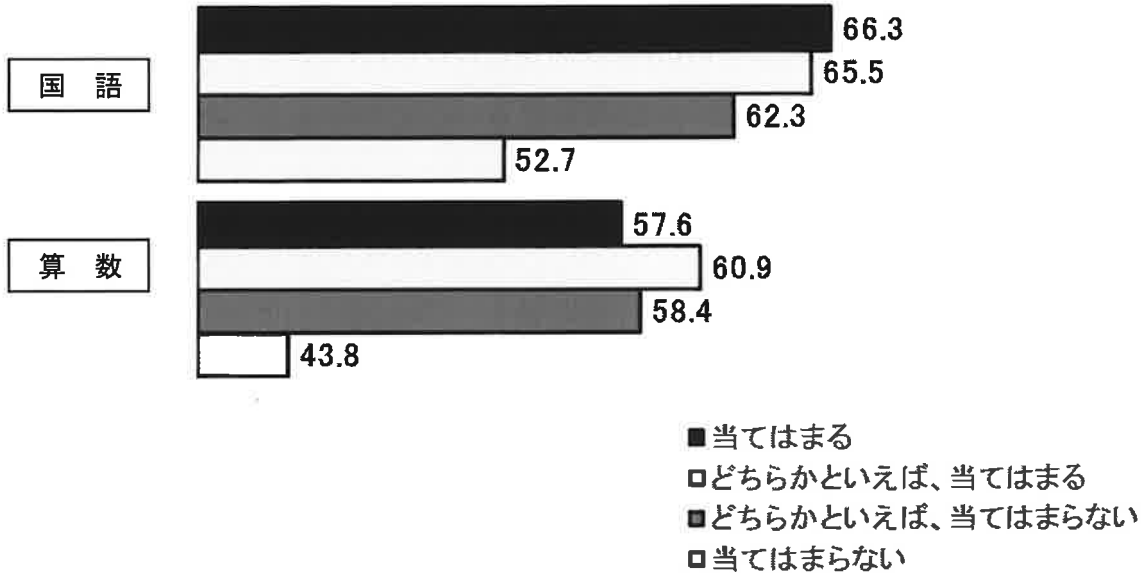
- ・ 1日に読書を「全くしない」割合は、小学校は24.0%で全国（24.5%）に比べ、0.5ポイント低く、中学校は35.9%で、全国（36.8%）と比べ、0.9ポイント低くなっています。
- ・ 小・中ともに、学校図書館司書の配置等により、本に親しむ環境を整えたことや教科書教材と類似した作品を読む活動等を行った結果、全国・全道と比べ、学校の授業以外の読書の時間が多くなっているものと考えられます。

IV 児童生徒質問紙調査結果と平均正答率との相関

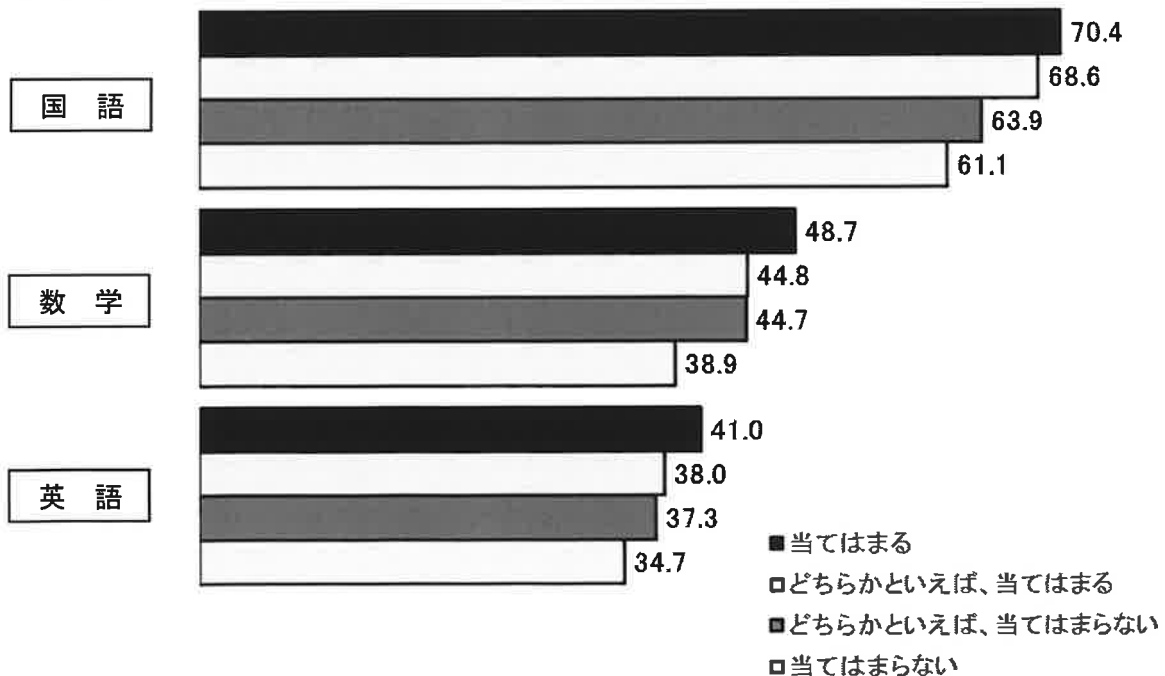
児童生徒質問紙の回答と各教科の平均正答率との相関について、主なものを掲載しています。

1 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

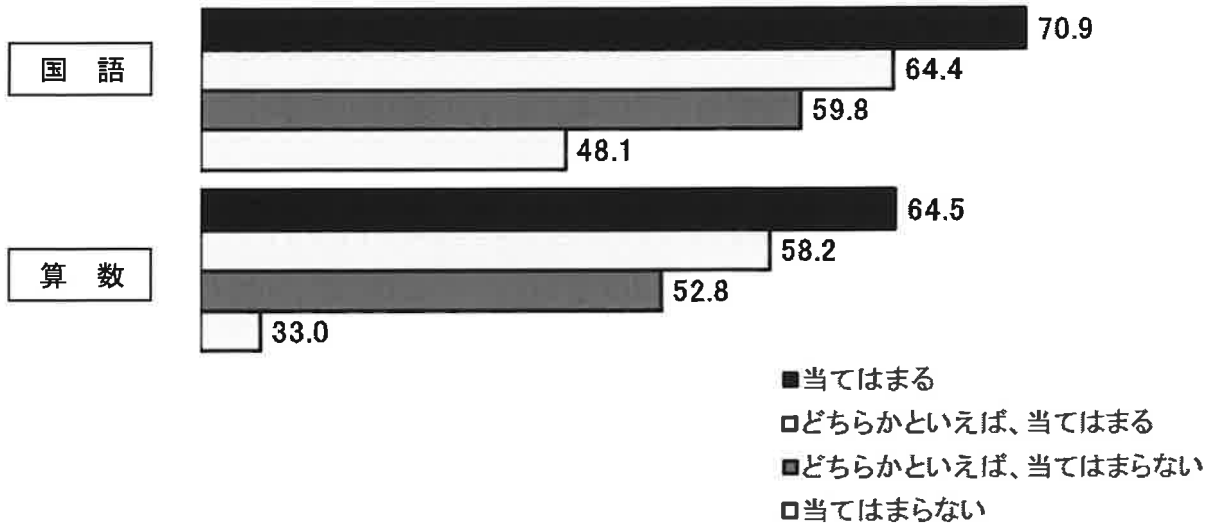


【中学校】

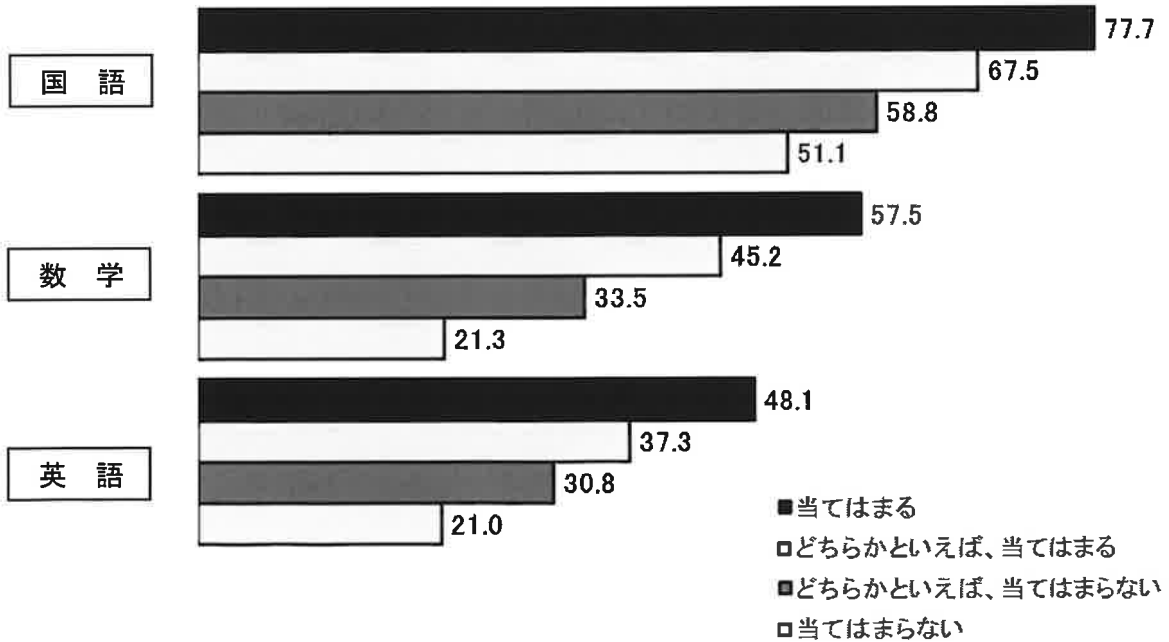


2 「5年生までに（中学校は1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

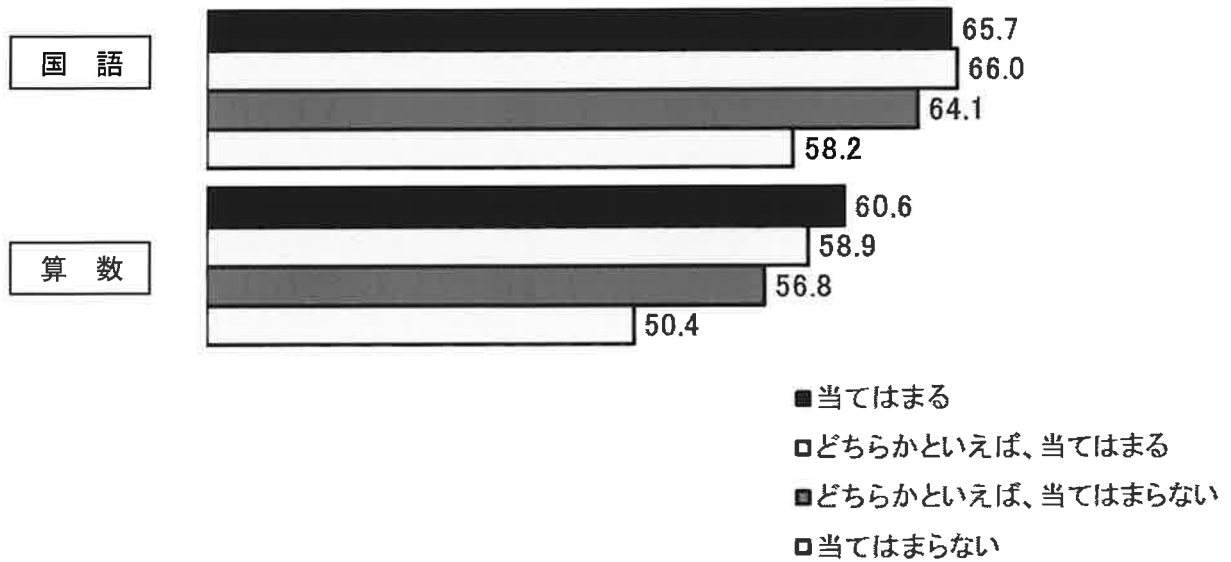


【中学校】

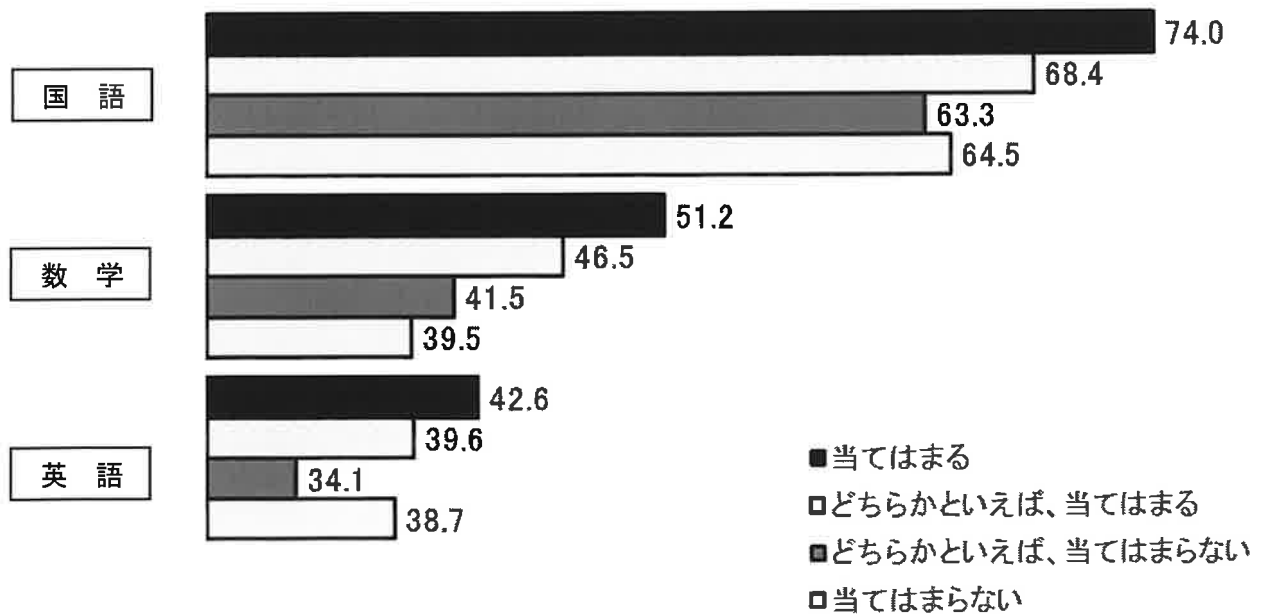


3 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】



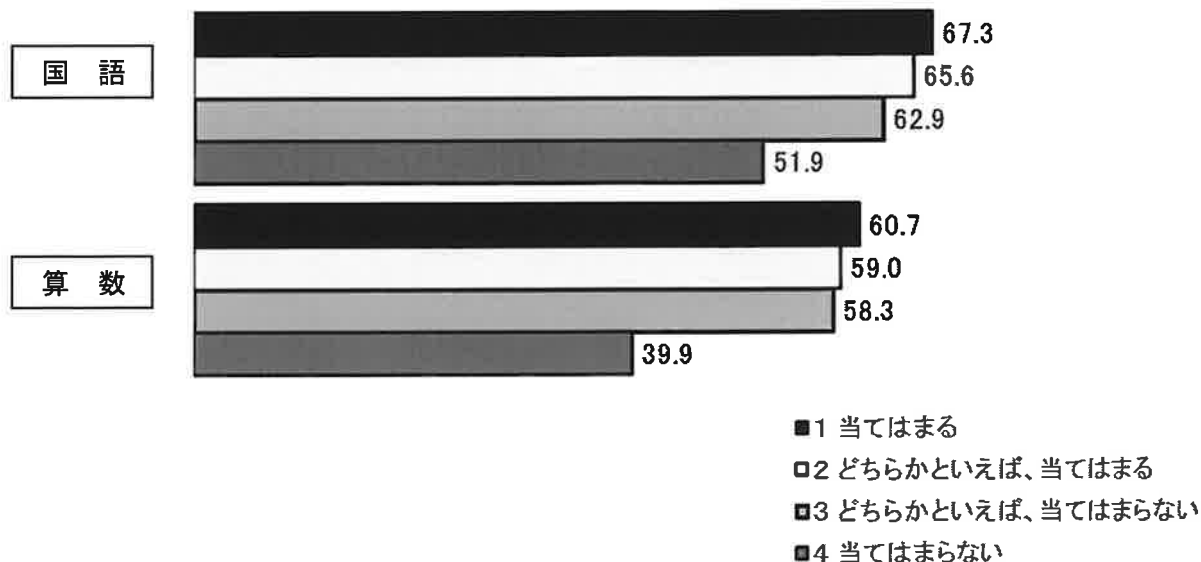
【中学校】



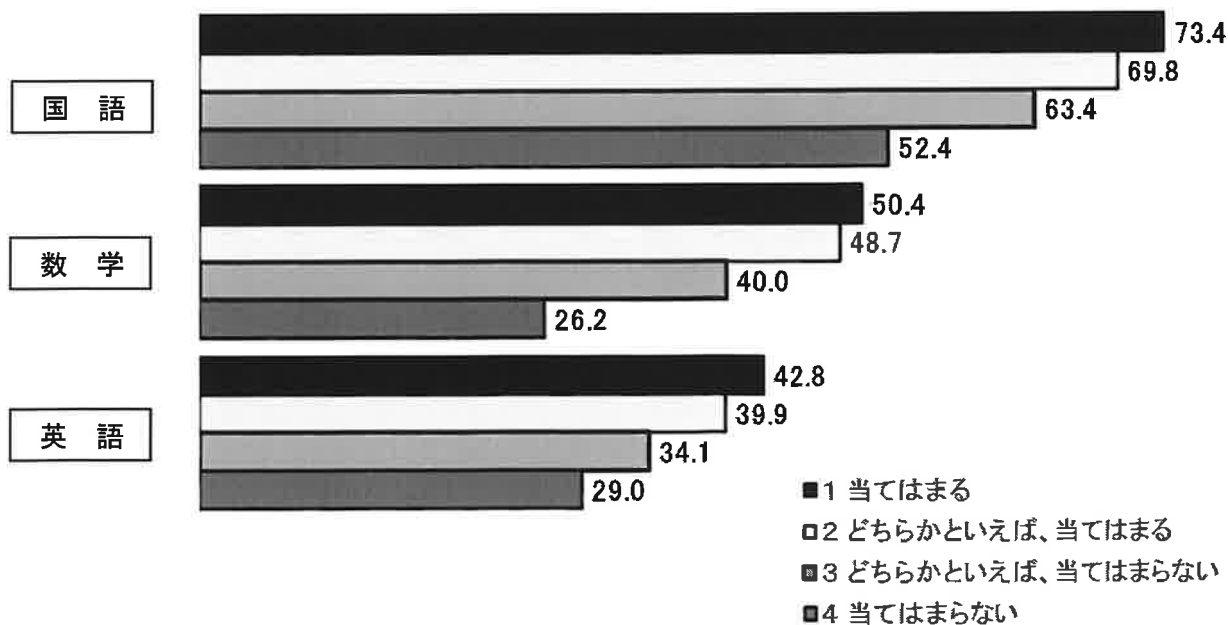
4 「学級の友達（中学校は、学級の生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

※「行っていない」と回答した児童生徒は除く。

【小学校】

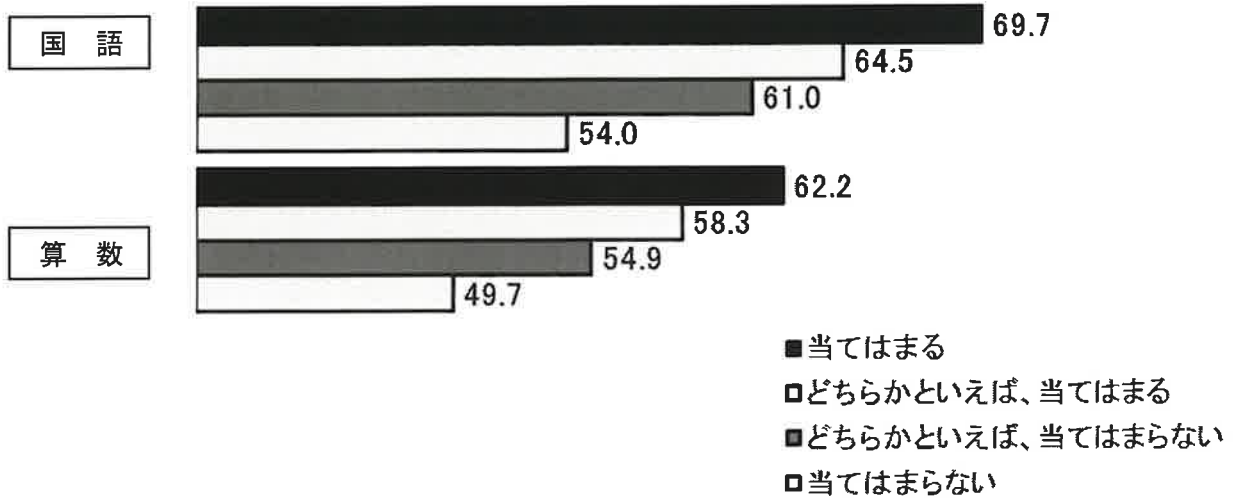


【中学校】

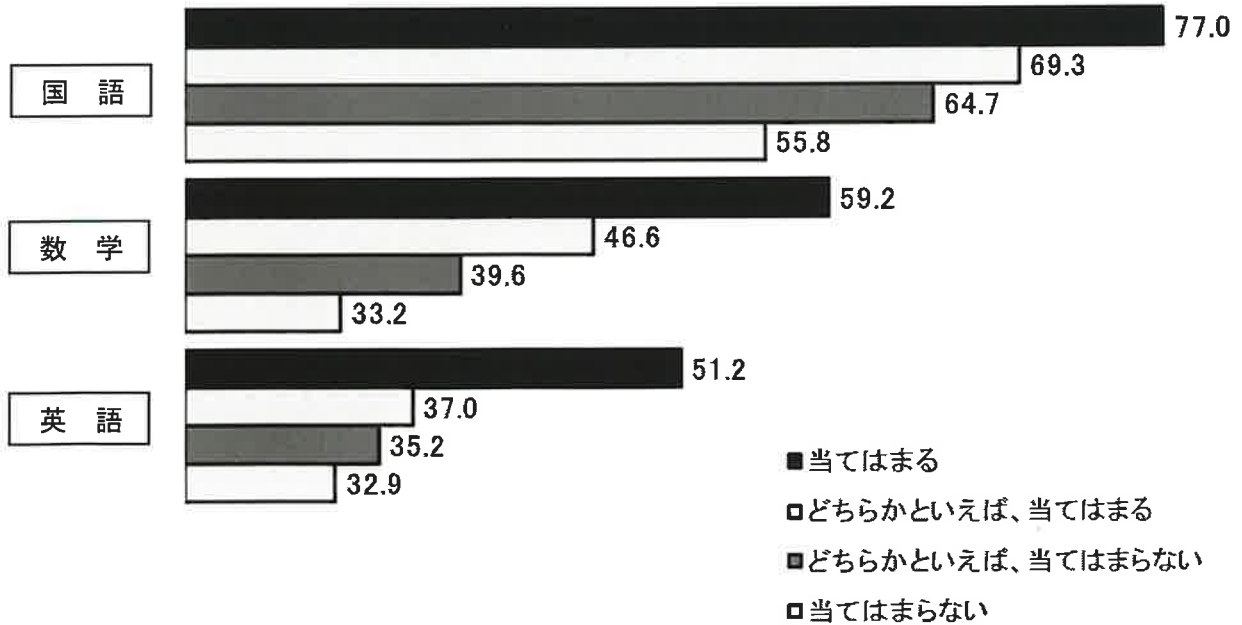


5 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

【小学校】

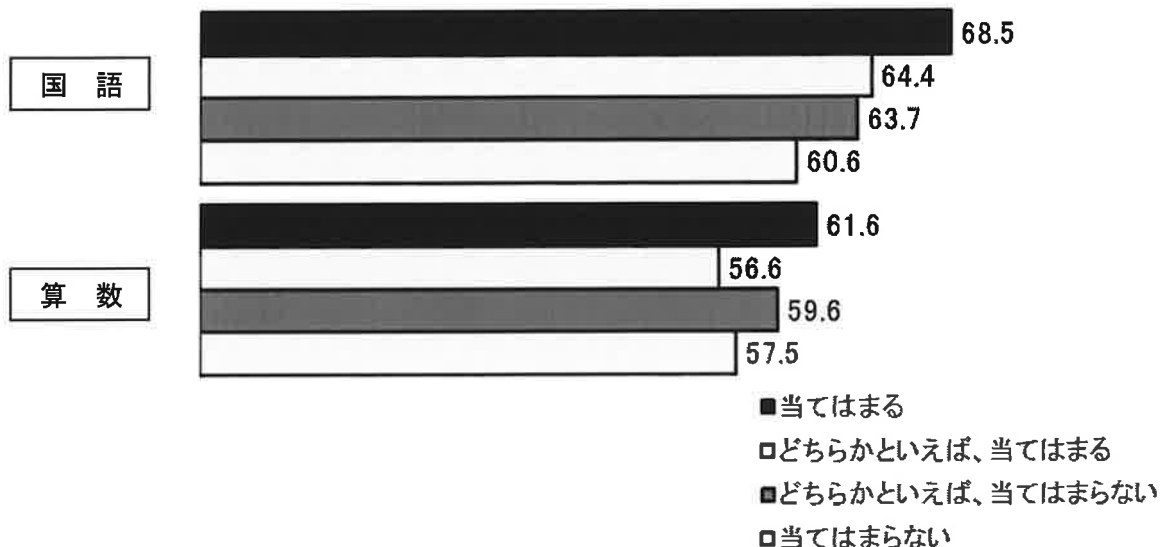


【中学校】

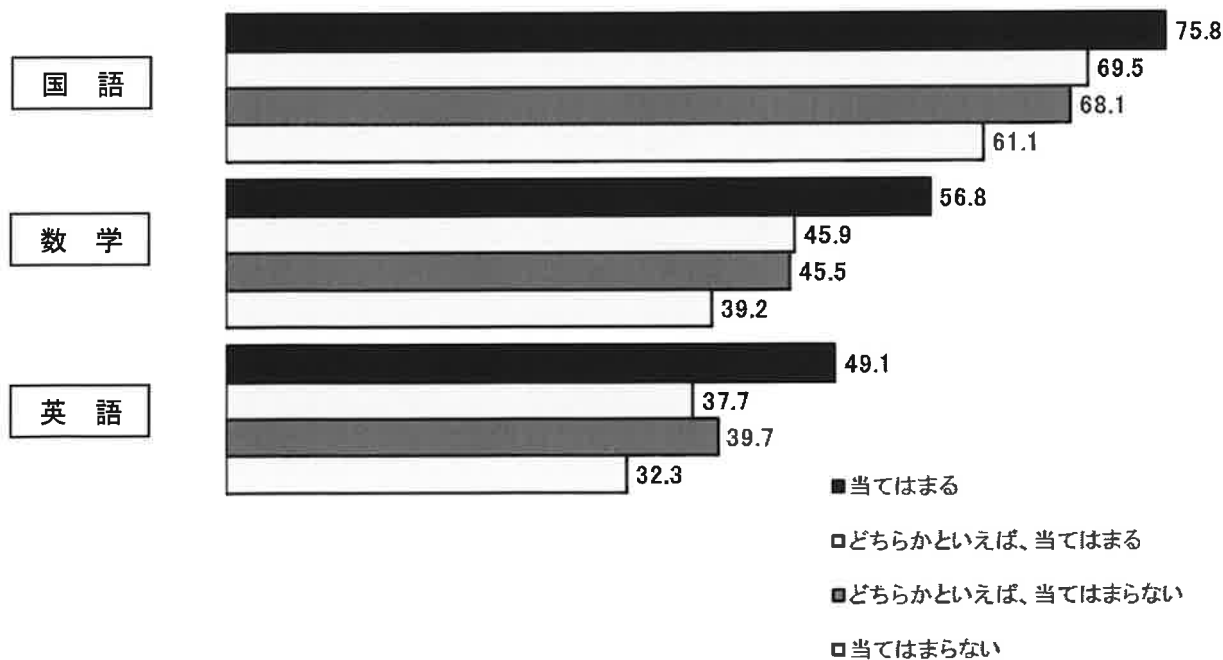


6 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

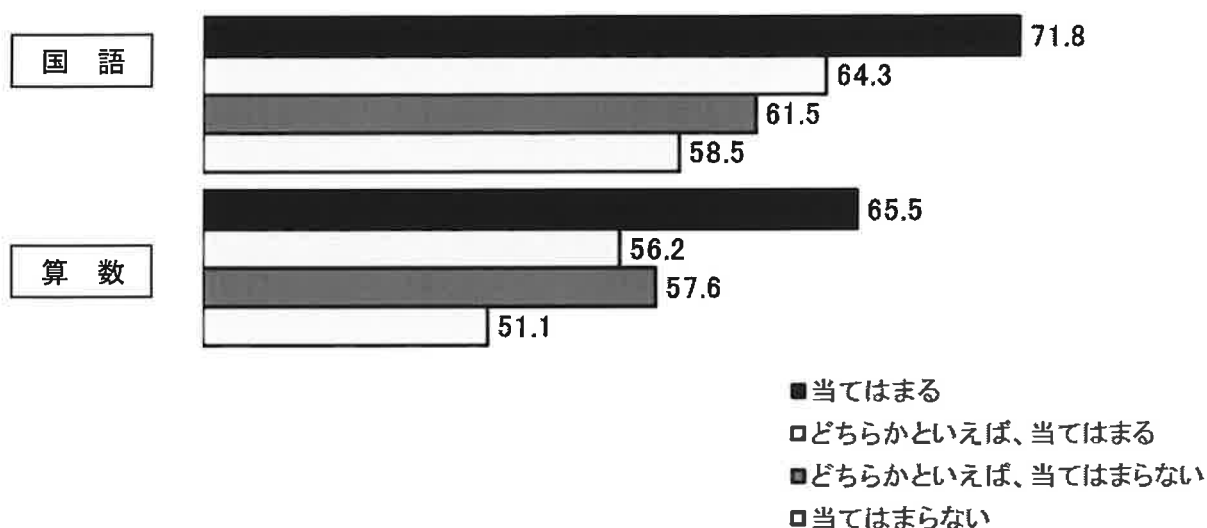


【中学校】

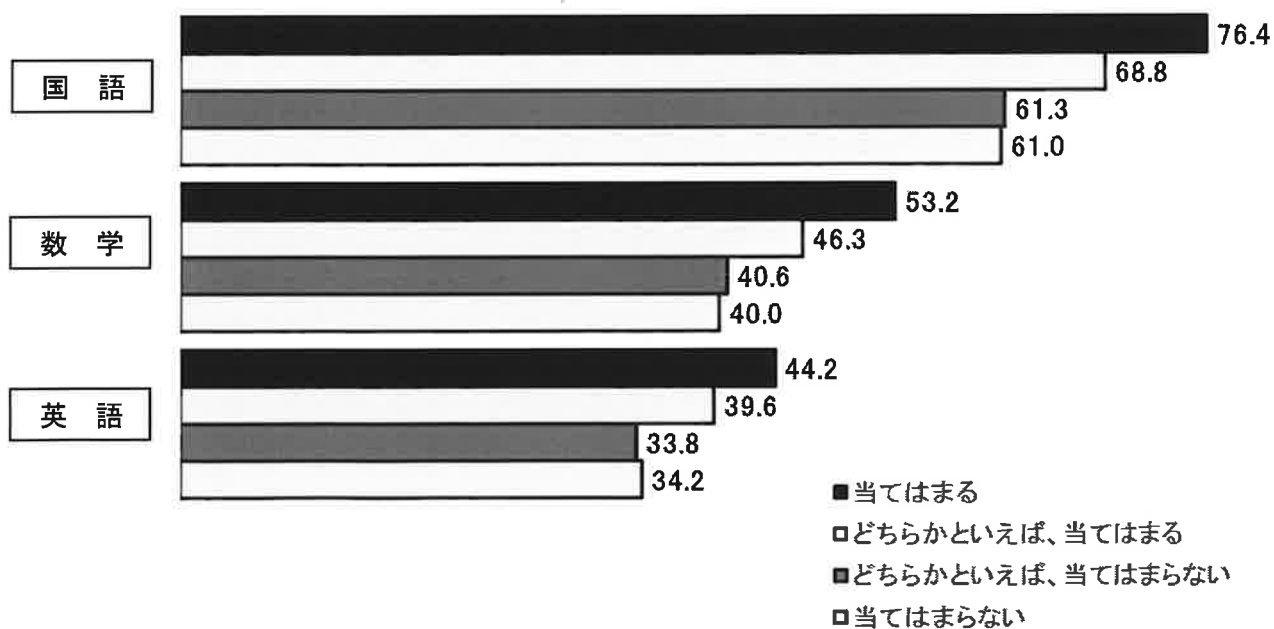


7 「読書は好きですか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

【小学校】



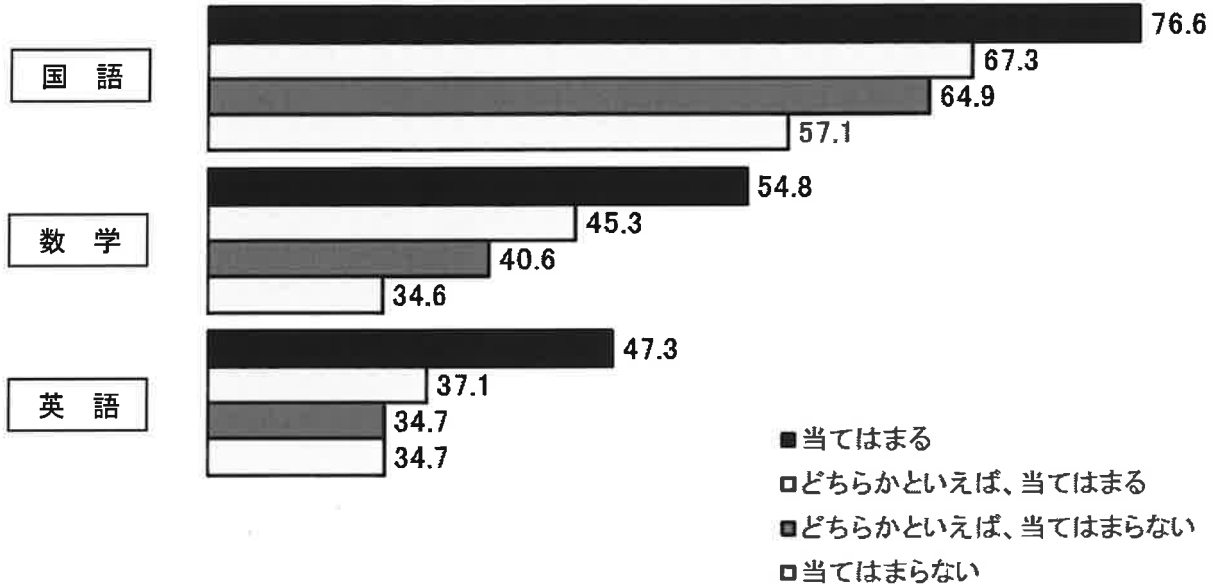
【中学校】



8 【中学校のみ】

「1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」との質問に肯定的に回答した生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

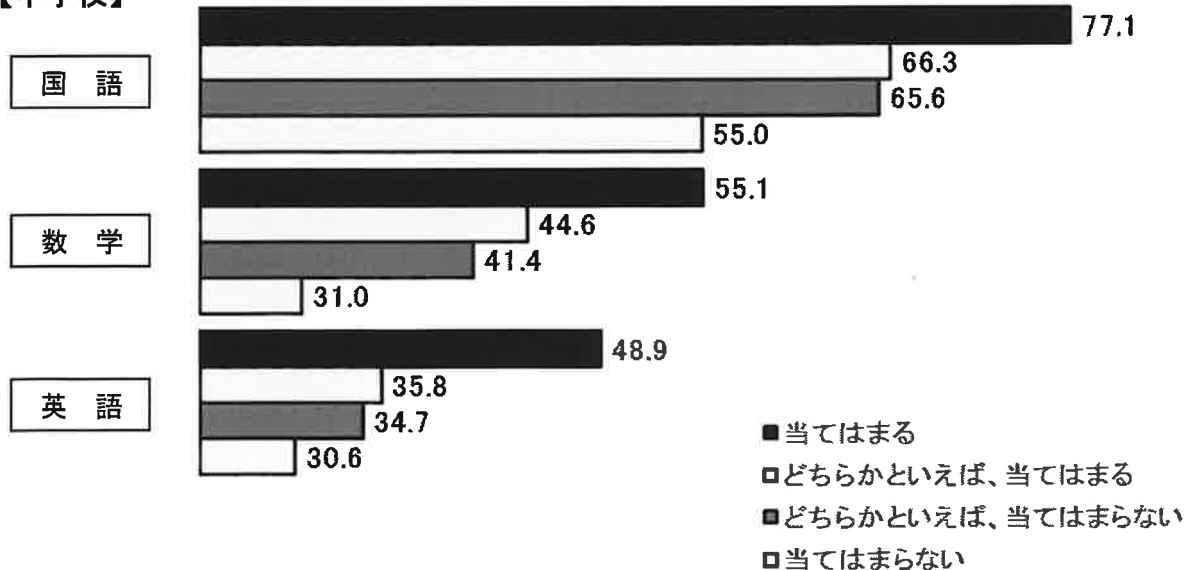
【中学校】



9 【中学校のみ】

「1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」との質問に肯定的に回答した生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【中学校】



V 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けた取組

各学校の取組

1 授業改善の推進

「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」を確実に実施し、子どもが主体となる場面を設定するとともに一人一台端末を効果的に活用する授業を行います。

2 「書く活動」の充実

根拠を明確にして、自分の考えを書くことができるよう、各教科の授業において、条件・字数・時間を示すなど「書く活動」を充実させます。

3 家庭学習の習慣化に向けた取組

家庭学習時間を増やすために、国語と英語の音読に確実に取り組むとともに、必ず課題を出し、児童生徒が「学年×10分+10分」以上、その日に学習した内容の復習や学習の定着に課題が見られる内容などに繰り返し取り組ませ、必ず土日にも勉強する時間を設けます。

4 生活習慣の改善に向けた取組

「おたるスマート7 (セブン)」に基づき、スマホ等の使用時間の減少に向け家庭に協力を依頼するとともに、「生活習慣スケジュール表」などを活用し、子どもの生活習慣の改善に向けた意識を高めるように指導します。

市教委の取組

1 小樽市小中学校学力向上検討委員会の取組

本市の学習の定着に課題が見られる内容や領域の解決に向けた検討を行い、資料を作成して、各学校に配付します。

2 学力向上実践交流会の開催

「学力向上実践交流会」を複数回開催し、市内の小中学校で成果のある取組について交流し合い、よい実践を広げ、本市全体の学力向上につなげます。

3 授業改善に資する教員向け研修会の開催

課題が見られる算数・数学及び英語の授業改善を進めるため、外部講師による教員向け研修会を開催します。

4 学校訪問による個別の指導助言

各学校の課題と取組を把握し、学級づくり及び学力向上のための指導改善に向けて、個別に学校を訪問して指導助言をします。

5 保護者及び児童生徒向け啓発資料の作成・配付

家庭学習の習慣化と生活習慣の改善に向けて、より意識を高めていただくために、保護者及び児童生徒向けの啓発資料を作成し、配付します。

小樽授業づくりの5つのSTEP!!

～ 市内全小中学校で確実に取り組む授業づくりのポイント ～

基
盤

安心して学べる学級づくり

【視点】

- ①自己存在感の感受
- ②共感的な人間関係の育成
- ③自己決定の場の提供
- ④安全・安心な風土の醸成

I 本時の目標と評価規準を明確にする

子どもにどのような力を身に付けさせたいかを明確にし、評価規準と評価の場面・方法を明らかにすることで、目標と指導と評価の一体化を図ることができます。

II 本時の目標を示し、子どもに学習の見通しをもたせる

授業の導入場面で本時の目標を明確に示すことで、子どもが学習の見通しをもち、主体的に学ぶことができます。

III 子どもが主体となる場面を設定する

- ① 自分の考えをもつ
- ② 対話する
- ③ 深く考える

書く活動の充実

Chromebook 活用!

教師の一方的な説明ばかりではなく、「なぜそう考えたのか、どうしてそう思うのか」などを問うことで、子どもの思考力・判断力・表現力等を育成することができます。

IV 授業の流れが分かる板書とノート指導を行う

子どもが学んだことを振り返ることのできる板書とノート指導を行うことで、学習内容の定着につながります。

V 子ども自身に学んだことを振り返らせる

授業の終末場面で、子どもが感想を述べるだけでなく、学習した内容を振り返ることで、本時の学習内容をどの程度理解することができたかを子ども自身が認識し、次の学習への意欲につながります。

授
業
展
開

家庭学習の充実

「学年×10分+10分」以上
(中学1年生は「第7学年」とする)

- 宿題(音読、漢字、計算、自主学習ノート等)の出し方について、学校全体や学年、教科間で共通理解を図る。
- 家庭と連携し、達成感や自己肯定感を味わわせる児童生徒への働きかけ(励ましやコメントなど)を意識する。
- Chromebook を持ち帰り、復習や定着に課題が見られる内容に繰り返し取り組む。